

う私も、最初はそこまで考えていなかった。漠然と評価まで参加しなきゃと思っていても、具体的にどうするのかという考えはなかった。いくつかの市町村と一緒に計画づくりやって、職員、市民の方々と一緒に汗かきながら学んできたのです。

そういう点では、芦屋は後発組ですので、先発組の失敗を学び、いいところをとれるわけです。先進事例や手法を取り入れることができる。厚生労働省の地域福祉課のHPにどこの市町村がどうやっているかという情報があるので、その気さえあれば情報を取れます。「なるほどこういうことをやっているのか」と学び、その人呼んできて、講演会を開いたり、こっちから行ったりと、市民レベルの交流もこれからやっていかなければなりません。

(4) 地域福祉施策・サービスの改善などに関する評価

(5) 地域福祉計画策定の自治体行政改革のインパクト

もう少し細かに見てみましょう。(4)は飛ばして、(5)(6)(7)です。

1つは、地域福祉計画が行政を変えるインパクトになったかどうかです。例えば、みなさんがこうやって参画をしたことが、これから先、計画にどう反映するかということにいちばん関心があると言いました。つまり、皆さんがどう関わってきて、行政がどんなふうになっていくか、そのインパクトになったかを見ていかなければなりません。これがきっかけで、「芦屋の職員の中には、私たちの声を聞いて一緒にやっていきたいと思っている人もいるんだな」とか「今までの行政とは違うな。上から頭ごなしにものを言わなくなったな」と発見した人もいるし、逆に「いいや、変わってないで」とか「騙してるんちゃうか」「結局何もしてないのではないか。お金もないし」など感じることもあると思います。

よく「お金ない」と言うでしょ。トータルでいうとないかもしれませんが、でも、そこは配分です。「もっと産業誘致の方へ使いたい」というところもあれば、「高齢者が増えるし福祉産業を充実させよう」というところもないわけではない。お金の使い方です。みんなの声が高く、広がりがあるとわかれば配分も変わってくる。例えば、愛知県の高浜市があります。人口3万しかない小さな市です。首長さんがやる気いっぱい「福祉で我がまちを立て直したい」と考えた。その周辺の市に合併で飲み込まれてしまうというので、アピールしたいわけです。合併した市でも福祉では高浜がリードしたい。そのためには職員がやる気にならなければならない。職員がそうならと思ったら、市民から元気をもらわないとできない。そういう戦略を立てたまちもあります。お金は道路の誘致に使うのか、福祉に使うのかの違いです。

秋田県鷹巣町は、人口3万あったかなかったかの小さな町です。首長さんが選挙で「福

社の町長になる」と言って当選した。最初は議会も反対しました。福祉より産業を振興させたいからです。どんどん中央からお金をとって産業をしたかった。でもひっくり返っちゃったんです。それが面白いというので、映画監督の羽田澄子さんは、カメラかついで現地入りして、要所要所で市民がどう活動するのか、議会がどう変わるかを12年間にわたり撮って映画にしました。それこそ、リサイクルグループ、デイサービスを考えるグループ、ボランティアグループなどのワーキンググループをたくさんつくって、皆さんのアイデアを出して、町長はそれを受けて、議会答弁した。最初の5年くらいは、予算も認められず、反対されて、なかなか実現しなかったけど、5年後から変わってきた。市民もがんばるし、議員さんも理解を示してきてたし、どんどん映画で注目されるし。そこまでは良かったけど、ちょっとやりすぎたかな。合併の話が出て、選挙で負けてしまった。残念です。ほどほどがいいですね。あんまり調子に乗りすぎると、足元をすくわれてこけてしまいます。

要するに、お金をどうするかというのは、最終的には議会が決めることです。議員さんが決める。でも、以前にも話しましたが、議員の方々は、全員がすべての分野のことをパーフェクトに知っているわけじゃないんです。昔、学校に行っていた人が少なかった時代には、それなりの知識、情報、センスがある人しか議員になれなかったけど、今は議員にならなくても、いろんなことを知っている人がたくさんいます。せっかく市民が知識・技能を持っているのに、生かさない手はないです。たとえば、こういう市民会議です。議員にも自分のブレンを持って、市民の声を聞いて、それを施策に生かしていく人もいたし、そこをつなぐ人もいたものですが、少数派でした。今も増えたと言っても少数派です。みなさんのやることは、予算の決定権はないけど、どういう事業を出せばみんなが喜ぶか、だれが何を必要としているか、先進事例はどんなのがあるかというアイデアをつくっていくことです。

私たちがやっていることは、事業を選ぶことです。策定とは、事業をつくることです。策定委員会というのは市長に対する答申になります。でも、最終的には予算をつけてやるかどうかは議員が決めることです。この計画の中に載っているいくつかのメニューがあり、重点的だといわれるものがある。それに予算をつければどうなるか？ 1年目はこれだけしか予算をつけられないが、2年、3年積み立ててやると5年先には一定の形になるだろう。そのメニューをつくるのが、市民参加のワーキンググループの課題です。いろいろとアイデアを出しても、それだけでうまくいくわけじゃない。でも、少なくとも、丸投げの時代は終わった。「ちゃんと目利きしてくれる市長や議員じゃなければ次の選挙はお辞めください」ということなんです。日本の投票率は上がらないでしょ。どこかで諦めている。「何かを言ったって変わらない」「私には関係ない」と思っている。

それを回復させないといけない。選挙は4年に1回しかありませんが、計画の改正時期に、あるいは、市民会議のように計画に先だつての仕込みをやり続けられれば、いつでもずっと、恒常的にできるわけです。

(6) 地域福祉計画の地域福祉システム化への影響

こういうことをやっていくためには、地域福祉計画をシステム化できるようなものにならなければなりません。これからは、一旦お金がつかいたらずっとつくという時代ではありません。5年刻み、10年刻みで見直しをしないといけません。行財政改革も、一律カットでは痛みわけでしょう。同じ1割カットでも、パイが大きくなるとなんとかやれますが、予算が少ないほど影響を受けるので、事業自体ができなくなるところもある。「それはないやろう」という感じです。1つ1つの事業がどのくらい大事なものなのかを評価していこうという時代に入っている。それができる職員をつくらなければならない。「大きいだけじゃなくて、たとえ少なくともこれは意味がある」「今は意味がなくても、10年経ったときに意味があるときちつと説明できる」というような材料づくりを私たちがやっているわけです。ホームレスの問題でも、国際交流の問題でもそうです。ニートの問題でも、最近は議論になっていますが、ずいぶん前から市民活動ではそういうことに取り組んでいた。ずっと放置されてきたから状況が深刻化して、今あわてて対策をつくってます。評価をしながら、施策を展開しないといけない。じゃあ、評価するときに専門家や行政に任せるか？ そういうことではない。行政は行政としてやっていかなければならないし、専門家は専門家の立場でやらなければならない。しかし、直接影響を受けているのは市民です。だから市民が評価できる仕組みを考える。専門的に言うと、ベンチマーク方式というのがあります。市民が評価をできる指標とか評価方法です。これが実際のところ、なかなか難しい。だけど、挑戦し、試みてやっていこうということです。評価も市民参加でやっていくためには、みなさんが集まるような会議の拠点が必要ですし、集まるだけじゃなくて、皆さんをつなぐようなコーディネーターがいる。前に申し上げましたが、大阪府にはコミュニティ・ソーシャルワーカーがいます。藤井先生が関わっておられます。市民と行政、専門家の中に立ってつないでいく、そういう仕事があるんじゃないかというので、取り組んでいます。そういう地域コーディネーターは、本当は役所の人でやらなければならない。昔の村役場にはコーディネーターがいたものですが、いつの間にかそういう役割はしなくなってきたし、したくなくなってきた。いつも市民に「ああしろ、こうしろ」と言われてやりたくなくなったわけです。それが行動力を弱めてきた。むしろ逆に、積極的にやるようなコーディネーターづくりが重要なのではないのでしょうか。

(7) 地域福祉計画策定後の自治体行政への影響

最後は、こういう施策がどんなふうに影響を与えるのか、地域福祉計画を策定した後、行政自体がどのように変わっていくかをちゃんと見なければなりません。特に、社協(社会福祉協議会)の役割も重要です。社協にはNPOやボランティア団体をうまくつないでいくという役割が、今後問われてくるでしょう。それが芦屋の底力になるかどうかです。今、私たちがやらなきゃ次の世代がどんどんやらなくなる。自治会・町内会もだんだんしぼんでいく。社協もしぼんでいく。NPOは大きくなるかもしれんけど、どこへ行くか分からなくなる。これでは困るわけです。これをきっかけに、それぞれの部分がお互いに重なりながら、どのようにできるだろうか、どこまで計画によって進んだかを見ていかなければなりません。

計画は1つの道具です。私たちのまちが福祉のまちになるように、5年先、10年先の道具にしたい。道具は使わないとさびっちゃう。のこぎりだって、カンナだって大工さんは大事にしますね。料理人は包丁、まな板を丁寧に扱う。道具は大事です。道具をちゃんとしないといいものはできない。是非とも地域福祉計画を芦屋のまちを良くするために、いい道具にしてほしいと思います。では、後の1時間はディスカッションにしましょうか。

事務局: 今日村役場の話をされていましたが、なるほど昔の村役場の人は、きっと市民の方に身近にいたんだろうなと思います。

お時間をいただいているので、みなさんに一言いただきたいと思います。

社協職員: いつも社協職員としてはここで辛い思いをしています。社協は弱いと言われていますが、それなりに実施計画を立てたり、いろいろやっております。けれども、それがどうしても市民の方に見えない。私が入った頃から言われ続けていることです。県のレベルに行っても同じようなことをみな言っていますけど、「市民の方にとって社協ってなんやろ」と延々と言われ続けている。それをなんとかしたいといういろいろ活動しております。私たちも地域で地区を担当するようになって、外に出てはいますが、人と人とのつながりがいまだされていない。どうしても希薄で、外に出てはいるけれど、社協がやりたいことを言って帰ってくるだけで、地域の方が望んでおられたことを持って帰ってきて、社協の活動に反映するという仕組みになかなかない。

市民: 社協を応援するわけじゃないけど、福祉推進委員になり10年目なんです。10年経ってやっとやり方が分かって、自分からも積極的に入れるようになったと思います。今回も参加させていただいて、とくに積極性に磨きがかかりすぎて、今毎日が忙しいです。社協のイベントなどにいろいろと積極的に参加しすぎて体がついていかなくなっ

います。ちょっとやりすぎなんですけど、市民会議に参加させていただいて、本当に積極的になれたことは事実です。どうもありがとうございました。

事務局：地域で地区を担当するようになったとおっしゃってましたよね。さっきの先生のお話のように、行政の職員もいろんな地域に出て行ってコーディネーターの役割をすることがあってもいいのかなと。たぶん社協さんも同じことだと思います。地域福祉ですから、福祉が現実的なものになっていくためにも地域の拠点は欲しいなと思います。

社協職員：場所をしっかりと持っている地域はやりやすい。場所が必ずあるとは限らないから、高齢者の集い1つでも、やれる地域とやれない地域がある。例えば、43号線より南の地域の方は市民会館まで来るだけで大変なんですよ。地域の人が集まりやすい場所がいくつかあればすごくやりやすい。残念ながら、芦屋では、市民会館が唯一の、かなりたくさんの方が来れる場所です。

事務局：地域の方が集まる場所は、そんな大きなところじゃなくてもいいですよ。

社協職員：それと、集まって気軽に話し合えるような仕組みがなかなかない。仕掛けをしないと集まってくれない。宝塚市の中山台の話聞いたんですけど、いつも誰かがいるという状況ができてるのはすごい。そういう場所を持ってもらえるのもすごい。社協職員がべったりいるわけじゃなくて、地域の人たちが自分の手でやってもらえる。その仕組みをつくり上げたのがすごい。芦屋はそこまでは及ばないけれど、目指すところはそこかなと思う。

牧里：拠点というのは、自分たちでつくるものだと思うんですよ。今の中山台とか長尾地区とかは、やっぱりそういう場所があったから見つけて、または「獲得しようや」という動きが始まって、自分たちでつくった。だから、市民が自分たちのものとして「じゃあ電話番号は私たちがしましょう」ということになるわけです。市役所がつくったり、社協さんが用意すると、どうしても「管理」になる。「何時から何時まで登録してください」という形になる。やっぱり自分たちでつくるべきです。長田の真野地区という公害反対運動に立ち上がったまちがある。そこで、年に数回まちづくり祭りをやる。全国から建築家も福祉活動をやっている人も集まってきて泊るんです。集会所に布団を借りて。デイサービスセンターも宿舎に変わるわけ。普通はそんなことは許されない。だけどそれは実績です。自主管理がちゃんとできている。昔の村の集会所はみんなそうでした。交代でだれかがボランティアで見張りをやっているから、気の毒だからって一升瓶置いて「これで夜中過ごしてください」ってね。

軟弱な子がいると、「ちょっとうちに来なさい」とか言って、夏休みに1ヶ月くらい預かるわけです。するとひ弱だった子がしゃきっと帰ってくる。子育てを村でやっている。肝試しをしたり、滝に飛び込んだりして、今まで「お母さんお母さん」って言って

た子が、「これからお母さんの面倒は僕が見ます」と変わるわけ。そういう伝統がありましたよね。そういうものを自分たちでつくった。

京都は小学校区が強い歴史的背景があるといわれています。なぜかという、小学校を自分たちでお金出してつくってきたからです。全国的に古い小学校区があるところは、その村の人やまちの人がお金を出している。いい学校をつくったらいい先生が来るからです。それがまちづくりであり、私たちの後継者を学校がつくってくれるから、親たちが腐心したり何かをするのは当たり前だった。今は全然違ってきましたね。PTAに行っても、「あの先生、〇〇大出身やってね。大した先生とちゃうわね。偏差値低いし」となる。そりゃ学級崩壊します。先生も先生だけど、親たちが先生を守らない。このまま放っておいたら日本は崩壊します。自由と言えば自由で、芦屋が嫌だと思ったら、神戸に住むこともできます。でも、やはり芦屋がいいなと思って選んだんだから、それをもっと幅のあるもの、豊かなものにしようという思いを持っている人を1人でも見つけて、そういう拠点をつくりたいですよ。私の住んでいる豊中の原田という小さなまちは、集会所は民家ですよ。個人の家です。個人の家だから24時間365日いつだって住民集会所ができる。人数制限はありますけどね。一軒家やから最大で多く入って25人かな。

そこは高齢者ご夫妻が2人住んでおられた。自分ちで、ガレージから座敷まで行くのにリフトをつけておられた。それで「あそこ、ミニデイサービスのセンターにしたらいよいよな」という案が出た。そして、お2人が亡くなって、娘さんに「貸してください」とお願いして使うことになった。あつかましいでしょ？ あつかましい民生委員さんが1人いたんですよ。「幼稚園の空き教室がいいかな？ お寺がいいかな？」とあちこち考えて、たまたまそこが空いていた。その娘さんがたまたま市社協で車の運転ボランティアをしているということがわかった。「もう少し押したらいけるで」と言うので、頼んだら貸してくれたんです。無料で貸してもらうのは気の毒やから、私たちはせめて固定資産税は払いたい。でもお金がない。考えた挙句、減免してもらおうということになって、私らが声を上げた。いろんな手をかけてやりましたよ。議員に言ってもらったり、広報の新春企画で、市長さんに「いいことしてるね」と言わせて文字にして載せる。そうすると、議員さんも言いやすい。「市長さんがいいことしてると言っているのに、なにもしないの？」と言って。それでも「そんなんあちこちでできたらどうしまんねん」と言って抵抗するんです。その場合は「モデルケースや」と言います。「これからは民間の空き家や空き工場、空き店舗とかたくさんあるから、それを活用せんといかんのちゃう？」とか言って。

豊中もね、社会福祉センターがないんですよ。あるけど、おんぼろでね。大会がある

とわざわざそこでやるんです。ここの部屋よりちょっと大きいくらいです。400~500人が来たら座る場所もない。タバコ吸うところもない。市長さんもタバコ吸うんですが、控え室をつくらないから、路上で吸うことになる。「ほうら狭いでしょ」とも、いうアピールです。すると「よう分かった。考える。でもお金がないから今はできない」を押しといたことになった。10年かかって一応、病院跡地をゲットして、建てることになり、さうなんです。あの手この手で民家を借りて、集会やってるんですよ。そういうのは説教。し得力がある。「つくれつくれ」だけ言うんじゃなくて、「こんなにやってるのになんでそんなに冷たいの？」って言える。やはり市民の力です。市民の力と言うより、女性の力「若いなんですけどね。主演は女性。泣き落としたのも民生委員さんも女性。「あつかましい」どうというのは「思い」や「願い」をちゃんとストレートに言えるかどうかなんです。男は「こんなん言うたら差しさわるかな」「自分の出世にひびくかな」といろいろ考えてあげて、言いたくても言えない。そう考えると、女性はいいですね。女性パワーで拠点づくりをやる。

拠点は無いわけではなくて、あると思う。むしろ、逆に、市の集会所で小さいのがあれば、それをもっと活用するべきです。たいてい、どこも今は9時から17時までで役所と同じやり方ですよ。お葬式の時しか使えなかったり。で、お金がないから習い事ばかりやるわけ。市民の集いができない。やり方を間違っているわけです。拠点はつくられるのではなく、つくっていくものです。つくっていく者が中身を作り出していく。人は立派な会館ができたけど、9時から17時までしかやってないところと、雨漏りするけどどなんとなんか誰かが来てくれて修理してくれるところのどっちがいいでしょうね。そう一緒にいうところをもっと見つけていく。これは社協の役割ですよ、あつかましくなってね。拠点があつたら使ってあげて、社協で「なんとか提供センター」とか名づければいいわ。けですよ。

市民：今日、先生が言われた「人間関係がまちづくりの鍵だ」ということは、本当にそのとおりだと思います。今回、小学生の子どもを見守り隊を始めたんですけど、なかなか市民が弱いんですよ。結局人間関係が難しい。月1回の集まりでも、子どもも大人も同じ扱って、お茶出すならお茶、みかんだすならみかんと全員に出す。あるいは、防災訓練や火災の消火訓練でも、子どももみんなどんどん来れるようにする。子どもが来ても、大人と同じようになっていろんなことをする習慣をつけたら、最近はずいぶん子どもが出てくるようになったんですけどね。要するに、大事なことは、子どもがみな出てきて、加へ大人もみな出てきて、大人も子どもも一緒に何かをやることです。すると「あの子はあしたかそこの子か」「あそこの家の子か」「あそこのおじさんか」という感じで大人も子どもをつく知り、子どもも大人を知ってくれる。そういう時間を作ることで、みんなが出やすくな評価

ってくるんです。今までは、餅つき大会とかでも、出てくる人が決まっていた。

うちの地域には今400坪ほどの芝生があるので、こんど植え替えるときはみんなで種を植えようと考えています。種をまく日を決めて、家族連れで全員来てもらって、この日は一緒にご飯食べて、おやつ食べてもらう。日本では芝生は踏んだらだめって言うけど、踏んだ方がいいんですね。踏んだ方が強くなる。元気になるそうです。なんとか子どもが入ってもいい芝生がないかって、みんなで探し回って、いろいろわかってきました。4月頃になって芝生が育ちやすい環境になったら、イベントをしたいと考えています。まずつながることです。それからしか、ものごとにはできないのではないと感じています。

牧里：とても大事なことをおっしゃっていると思う。今までの市民活動や地域活動を見直さないとだめなんです。極端な言い方をすると、まず組織をつくって、上から下へ下ろしていくというやり方が、たぶんだめになってきている。自治会も社協もどちらかと言うとそういう傾向がある。そうじゃなくて、まず活動をつくっていく。今おっしゃったように、何かイベントやプログラムをやる。それをやるために組織がいる。そして組織ができるわけです。そういうものをどんどんつくっていかなければならない。組織をつくったら、それが勝手に動くとかそういうものではない。

例えば、子どもの事件が多いので、見守り隊をつくる。でも見守り隊つくってもなかなか人が来ない。組織づくりから始めると参加者がいないんです。「なんでそんな面倒くさいことやるねん」って。それより、お年寄りが朝、散歩するよね。それを1人じゃなくて、2、3人でやる。そして、登校するコースの逆に行く。または、低学年が帰る時間帯に、奥さまが買い物に行くコースを選んでやる。ウォーキンググループも、ウォーキング見守り隊にする。元々は自分たちの健康や買い物のためなんだけど、それは結局、子どもたちを見守っていることになる。それらをちゃんと組織にして自治体がバックアップする。そうすると、「あそこのまちは、お年寄りや奥さま方がうろついているから、ちょっと事件起こしにくいな」となる。役所が杓子定規に考えて動くのは仕方ないけど、市民までそんな風に考える必要はない。たまたま「こういうことをやりたい」「それをやりたい」というのを結びつけるとこうなった。その入れ物として組織をつくるとやりやすい。勝手にやっていると、「あのおじさんたち、何してるんや」と思われるけど、「これは社協の子どもたち見守り隊ですよ」というと、みんな「そうなんや」と納得する。その説明を社協がやってあげるんです。市役所はそれにちょっとお金を出してあげる。「おお、市役所の公認かいな」となるわけです。

市民：この会議に来たら、自治会とか民生委員の方がたくさんいらっしゃる。近所に民家でデイサービスとか宅老所とかやっているチラシを見たんですけど、誰がやってらっ

しゃるのか私も知らない。また、NPOで育児サービスをやっているところが新しくできたというチラシを保育園で見せてもらった。私としては、そういう所の人がこの市民会議に来るイメージがあって参加しました。でも、あまりそういう人がいらっしゃらない。なんでだろう。そういう方の拠点というか、そういう方が集える場所が分からない。ご存知の方いらっしゃいますか？

牧里：僕も芦屋について詳しくは知らないけど、たぶんそういうことやっているところはいくつかある。やりたいと思っている人もいる。これって見える形にしないと分からない。でも、これもいろんな人がいて、見えない分だけ悪いやつもいるわけ。いい人と悪い人をどこで見分けるのかというと、そういった人が集まってガラス張りにすることです。「うちはこういう思いでこんなことをやっているんだ」と情報交換できるようなところに加わっている団体と、そうでない団体があります。

虐待が問題になるようなベビーホテルがそうですが、悪いところは孤立してるわけ。そうじゃなくて、「市民が参加してやらなきゃいけない」「広げなければならない」というところは、情報交換もしているし、ネットワークの中に入っている。「誰でも来ていいよ」となるし、それを見て「私もやりたい」「支えてね」となる。それを市役所や社協が見つけて、形にしているかどうかということですね。

事務局：先生がおっしゃったように、公開の場でみなさんが判断できる場はすごく大事です。みなさん行政の力を買いかぶってらっしゃるところがある。行政が、いろんな活動をされているボランティアグループやNPOの情報をすべてつかんでいるということはある得ない話です。「あるよ」という情報があっても、具体的な活動内容や、本当に危ないところじゃないのかという情報を正確に把握してるかということ、意外とそうではないんです。行政の情報力は大したことない。それをカバーするものとして、少なくともみんな判断できるような公開の場があれば、市民の目もあるし、行政の目もあるし。それが重要ではないでしょうか。

市民：顔を出せる場がもしあれば、見えてくるかもしれない。

牧里：中間支援組織というのかね。市民がそういうことをやるのを、行政が建物の提供とか組織そのものを認知したりして、支援する。ワンクッションおくんです。行政がいきなりやろうと思ったら何もできないというけれど、そうでもない。行政は大きな組織だし、金を持っているし、公権を握っているし、ブランド名として「公共性のある団体」です。やはり悪いことで利用したい人もいるわけです。すると、どちらかというと行政のほうが否定的になる。あまり関わりすぎて、特定の事業者ばかりえこひいきしていると言われても困る。こういう市民団体はなんとか系の団体でややこしいんじゃないとか、宗教系は困るとか。そこで、いろんな組織が集まって、市民がネットワークをつく

っていき、悪いものが落ちていいものが集まるような受け皿をちゃんとつくれば、そこにいい人が寄ってくる。それを行政が支援するというのが新しいやり方です。今までは行政が手を組むのはたいてい、自治会・町内会だった。何丁目とかが丸ごと入るし、やりやすい。宗教色があるとかお金が絡むとかいうこともないし、そのまちに住んでいるだけだからできた。ところが、地域自体が変わってきた。自治会・町内会が住んでいる人々を全部消化できなくなった。行政はそこだけ見ていたらえらいことになるし、かといって代わりの組織もできない。その役目をNPOができたらいけれど、NPOにもいろんなものがある。隠れみのにして、麻薬のボランティアをやったりするNPOもある。そういうのを見ると、行政は「ちょっと…」となる。でも、その代わりに意識のある市民がネットワークをつくって市民管理でやると、行政にとっても情報把握がしやすい関係になるし、安心。そこでNPOの良し悪しをセレクトしてもらったり、NPOには「そのこの協会に話つけてますか」と言える。いちいち自分で対応しなくてもいい。それが1つのまちづくりなんです。行政におまかせという時代は終わった。私たちができること、市民ができること、行政ができること、それぞれ違うんです。それをどうつなぎ合わせるかです。先ほど、議会とワーキンググループの話をしました。そういう時代だと私は思います。

市民：私はNPOの活動をしています。4年前に法人化したときに、ハートフル神戸さんにご挨拶したときは非常に協力的でして、今でも仲良くやっております。その次は、高年福祉課に協力していただき、私どものチラシを市役所においてもいただいたりして、市民の相談を受ける活動をしております。しかし、社協さんは全然相手にしてくれませんでした。丸3年活動してきて、社協さんとは1回も接点がない。最初にご挨拶したときに無視されました。市民会議でご縁がありましたから、今日からまたよろしく願います。

私たちは、いろんな制度の啓蒙活動を重点的にやってきましたが、この4月から高齢者の転居支援事業をすることにしました。新事業のサイトも開きましたが、賃貸住宅の情報発信をするニュースソースは、ある大学の生徒さんが起業した不動産業者の検索サイトの中の高齢者に貸してもいいという部分だけ私どもとリンクすることになった。それに上場会社が協力するということで、NPOと学生ベンチャーと上場会社の協力でこの4月からスタートする事業です。いかがわしいNPOではないので、皆さんよろしく願います。

牧里：たぶん芦屋市社協だけでなく、どこの社協もNPOとうまくいってない。いろいろあるんです。社協は役所とよく似て古い体制なんです。例えば、町内会・自治会とは関わるけど、企業やNPOには一定の距離が開く。まったく役所と同じ行動パターンを

とってきたと思う。それが今ちょっと変わり目です。ボランティアをやっている人もいれば、NPOをやっている人もいるし、企業でも社会貢献やっているところが増えてきた。社協はそれらとどう付き合うのか戸惑っているところがある。これからです。ちゃんと社協と付き合えるNPOになるとかNPOと付き合える社協づくりをやるとか、これからの課題です。

市民：さきほどの先生の話で、京都の話が出ましたけど、京都に田の字エリアがある。三条と河原町の間ちょうど田の字になっているエリアがあって、そこは特区をとって、中学校の校舎の下に、老人ホームやデイサービス、保育所をつくっている。全部町内会の人がつくり、教育がいいからその中に移り住みたいということで不動産がどんどん上がってきている。人気が出てきている。ご町内の力はすごいと私は思っていて、そういうのこそ芦屋ができたらいんじゃないかと思いました。

牧里：先の京都の小学校の話のように、NPO法がなかった時代も、みんながお金を出し合って自分たちのまちをつくっていかうとしていました。今は洗練されてきたし、NPOが公共的なことをやるための下地や気運があります。自治会型の地縁組織とテーマを持ったNPO型をどうやってつないで形にしていくかが今の課題だと思います。どこでもできるわけじゃないけど、京都のそういう学区だからできていたり、大阪もいくつかそういう取り組みがあったり、神戸もいくつかあると思う。

そもそも自治会の力がちゃんとあって、そういう発想を持っているかどうかです。問題解決のためにどういう組織を選ぶか。問題解決が先にあって、組織があるわけじゃないんです。そういうところはちゃんとそういう形でどんどん新しいスタイルをつくっている。古い革袋に新しい酒を入れていくという形ですね。そういうことができていく。芦屋も全部ではできないけど、そういうことがやれる地域もあれば、もっと違った形の地域もある。それぞれの地域が工夫するというというか、それぞれのNPOが知恵を出す時代かな。いいお話ありがとうございました。

豊中でも市民公益条例をつくりましたが、時間がかかりました。結構ハードですね。でも市が支援できるのは立ち上げだけです。継続しようとするとなかなかそこまでいかない。立ち上げ資金までは出せるけど、後がなかなか続かないのです。やはりNPOが力をつけてやっていると、なかなか難しいと思う。でもこれから、介護保険の事業者が出てきたりするから、ちゃんと自分たちで自分たちの事業を起こしていくことが必要です。芦屋ならできそうな気がするけど。資産もあるかもしれんし。

市民：私は今回、いろいろ勉強させていただいて、ますますまちづくりが難しいと思いました。やり方次第と言えども、やり方が難しいなと思います。かつて転勤で加古川にいたとき、まちづくりのことでPTAのOBが集まって子どものためのグループをつく

った。そのときはだいぶん前ですが、地域エゴというものをまちづくりと勘違いするなと言われました。確かにそういうものに引っかかる部分もあったかもしれない。その辺の難しさがあります。地域エゴとまちづくりのとても難しい関係についてそのとき勉強したのですが、その辺を教えてください。

牧里：なかなか難しいところがありましてね。まちづくりは具体的でない、説得力はないし、具体的にするとすることは、自分の地域で実現させるわけだから、「あなたの地域だけ良くなるやないか」となるわけですね。ですから、やっていることが他にも広がる可能性があるということが大事です。広げるメッセージを出してないといけない。

「私たちはこのような条件が整ってやれているけれど、他のところもできるんじゃないですか」ということです。こっちが行って、出店つくるわけにいかんから、地域の方がやる気にならないとできない。そういう意味でのいい意味の地域エゴです。「おらが村をこうしたい」ということです。それが特定の人だけにならずにまちの中の広がる話になったり、他の地域の参考になったり、そういうことを常にやっていくことが大事だと思う。なかなかその線の引き方が難しいですけどね。

市民：時代が時代だったかもしれません。

牧里：うちの地域でもありますよ。例えば、得点にしたい人がいますやん。「わしがつくったんや」と言いたい人のことです。それで地道にやっているボランティアが反発するわけです、「なによあの人」って。そういう人には、バザーの1品でも余計に出してもらったらいんです。「自分がつくった」と言うことを責めてしまうと、金集めもしてくれなくなりますから、ものは考えようです。確かに1つのことをやればいろいろあります。僕らもそうですよ。ちゃんとしなかつたら、「大学の先生が偉そうにするな」と言われる。

それが楽しいという思いがないといけない。そうでないと利害が出て、結果としてそれがみんなの関係を壊してしまう。さっきおっしゃったように子どもも一緒。「同じ目線でやるのが楽しいんだよ」「それがまちづくりなんだよ」ということです。

私は、福祉のまちづくりと言っているけれど、何もいい施設をつくれとか言いたいんじゃない。「楽しいことをさせてもらっている」ということこそ、福祉じゃないか。まちに関わらせてもらって、結構喜んでくれる人がいて、気持ちいい。こんなありがたいことはない。私は、ボランティアは究極のレジャーだと言っているんです。金払って汗かいて時間出して楽しませてもらっている。こんなの他にありませんよ。

藤井：牧里先生が、地域福祉計画では事業を選択すると言っていましたね。要するに、これをやったらみんなに波及効果があって、行政も住民も協働ができて、なおかつそれがまちづくりになるということを見つけることが重要です。さっき宅老所のことをおっ

しゃったけど、先生が事例を出された高浜市の地域福祉計画なんかは、小学校区ごとに宅老所をつくろうということでプログラムを市民と一緒に考えた。その後、地域福祉計画の中で住民と一緒に「じいあんどばあ」という名で民家改装をした。そういうのを市民が考え、居心地のいい名称とユニークなものをつくっていくわけです。

行政の計画は、「計画立てて、予算がついて、それをとにかくコンプリートする」という形です。市民の計画づくりというのは、計画しながらもうやっちゃっている。計画ができた頃にはもう動いているっていうのが市民のプロジェクト方式です。地域福祉計画というのはその中間です。だから、何か立派なもの、コンプリートしたものをつくるというよりは、大いに行政と一緒に実験していくことです。少々失敗してもいいから、とにかくそういうのを見つけて、市民と行政と一緒に芦屋のまちづくりを実験しようやないか。そういうものを今度の計画で見つけていけばいい。そのネタや素材をこの市民会議の中で皆さんが発想としてお出しになったので、これらをより計画の中で生かせるといいなと思いました。

牧里：「この後どうなるんやろ。これで終わりかな」と思って心配している方もいらっしゃるし、策定委員にはならないでいいという人もいるし、なりたいという人もいるだろうけど、せっかく集まったのだから「市民で計画を見守る会」なんかつくっていただいて、策定委員会のあるときは、ギャラリーで来ていただいて、策定委員会の後に市民懇談会を1時間でもやればどうですか。これは他の市でやっているけど、話を聞きながら、代表で誰かが市民委員に「あんたちゃんと言うてない」「何でこんなこと言わんの？」と言えるし、井戸端会議ができるし。そういうことをセットしたらどうですか。

市民：市民会議に参加したのは、芦屋のことを真剣に考えているメンバーだ。僕自身ずっと難しいと思って悩んでいたものが、ここでスムーズに出てきた。ここにいろんなヒントがあるなと思った。いろんなこと聞かせてもらいたいし、これも聞きたい、あれも聞きたい、これも悩んでるねん…という話を。

牧里：一応提案だけしておきました。

市民：さっき先生が、女性はあつかましいとおっしゃいましたが、情熱があふれているものですから、あつかましくならざるを得ない。私もおせっかいだなと思いながら、つい言ってしまう。

ワークショップで学んだのが“LOVE”の精神です。“Listen Open Voice Enjoy”です。まさしく、最後にEnjoyがくるのは価値があることです。そのためには自分が生き生きしなければならない。私は家族の会をしていますので、ときどき相談のお電話をいただくんですけど、やはり声を出すべきです。家の中で、ただずっと介護だけをしていくんじゃなくて、「市民が働きかけよう」ということを皆さんにお伝えしている。すると、

どこか道が開けてくるんです。本当に悩んでお電話いただいて、私は何もできず「市の方や施設や在宅介護支援センターに問い合わせせて」とか「相談して」しか言えないけれど、なんか道が開けてきた。それが大事だと思います。1つ1つゆっくりでしたけど、出来上がってきた。公的な方たちも応援していただいて、市役所にも社協にもお世話になっております。会議にそういう方たちが出てくれるのは、芦屋だけなんです。他のところは社協が抱えている。芦屋の場合は市役所の方とかいろいろなところから2ヶ月ごとにご参加いただきますので、常によかったと思う。「声を出すこと」は大事。せっかくこういう会ができたので、生かしていきたいです。

藤井：すいません。ちょっとだけ宣伝させてください。地域福祉より高齢者福祉の方が少し先行していて、行政とか当事者とか認知症の高齢者の会とか専門家などが集まって、高齢者ケアをどうするかという話し合いをやっています。今度はそれを小学校区単位で住民が集まるサポートをしようっていう計画です。

市民：私は市民公募で応募しましたが、実は在宅介護支援センターで仕事をさせていただいています。高齢者の方を地域で見守り支えていくにはどうすればいいかを考えています。今、藤井先生がおっしゃったとおり、認知症の方に早く気がつき、みんなで地域で見守りをする活動を進めるためには、まずは啓発活動があるので、そのためのリーフレットがいきます。「認知症ってどんなん？」の名でプロジェクトチームをつくったんです。それをつくったのが地域ケア会議といって、地域のいろいろな団体が集まって福祉を進めていこうとするものです。今回は目標だけで終わってしまわないで、どれだけ到達できたかをチェックしながら、1年間活動しており、計画倒れにならない、絵に描いた餅じゃない高齢者を支える仕組みができつつあると実感しています。だから私たち高齢者福祉を考える者としては、地域福祉計画と手を組んで、「子どもからお年寄りまで明日を支えるんだ」と思っています。

牧里：LOVE やね。

市民：「この会ができたので…」と言ってくださったので、この会はここで終わらないなど。思い込みが激しくてごめんなさい。

市民：いろんな方との接点を持つ機会は、なかなかないですもんね。

市民：この会を終わらせないためにどうすればいいか、知恵を絞らないといけないと思ってるんです。

牧里：皆さんの中で、世話役がいる。そして、市役所は場所の提供はできるでしょ？ せっかくのお付き合いがあるので、みんなが集まるときに、「部屋貸して」とか「策定委員会の後は交流会入れてね」「懇談会入れてね」とか言って、それが定例化すると集まりやすい。やはりそれは「みなさんが主体に」が大事。役所は土俵を作るだけです。

あまりやりすぎると、「市役所がリードして私たちがたぶらかしている」と思われてしまうから、市役所はあくまで、みなさんのやりやすいような土俵作りをする。お手伝いするとか、会場提供したり、情報提供したりとか。そのことで、みなさんから意見聞いたりとか、見返りがあるから。

なかなか役所は固いですね。時間があるので傍聴委員の人に「どうぞ発言してください」と言うと、「ちょっと暴走しすぎ」って言われて、傍聴委員の人も「え、発言の機会あるんですか」ってびっくりしたりして。でも、せっかく来ていただいたから、一般の人も感じたこと一言言っていただけたらと考えた。それが「いっそのこと懇談会したらどうや」と発展したケースもあります。あらかじめそうしておいたら、それが目当てでくる傍聴委員もいるでしょう。工夫すれば道は開ける。

事務局：それでは、お話もつきませんが、時間もオーバーしているので、今日の勉強会を終わらせていただきます。

質問：3-1 まちの好きなおところ

ふるさと声屋、無条件にすべて好き!!

生まれ育った町だから、
きらいが思いつかなくすべて好き。

質問：3-1 まちの好きなおところ

便利、利便性が良い

小さな町で商業スペースもあり、一歩中に入れば
住居スペースとなり利便性が良い

質問：3-1 まちの好きなおところ

環境、景観、景色がきれい、よい

公園が多い
まちがきれい

質問：3-1 まちの好きなおところ

静かで落ち着いている

まちが静かで落ち着いている

質問：3-1 まちの好きなおところ

みどりが多い

みどりが多い
緑道、緑が比較的多い
春は桜、秋は紅葉

質問：3-1 まちの好きなおところ

人間関係が良い

歩いていて、会う人と会話ができる
近所の人と仲良くしている
開放的である

質問：3-1 まちの好きなおところ

生活環境が良い

まちにごみが少ない
大きすぎないこのサイズ

質問：3-1 まちの好きなおところ

自然に恵まれている

里山が残る自然が住宅地からすぐのところにある
自然が多い。残っている
季節の風を感じる風土がある

質問：3-1 まちの好きなおところ

まちがきれい、美しい

町並みや道路がきれい
町並みが美しい

質問：3-1 まちの好きなおところ

質問：3-1 まちの好きなおところ

質問：3-2 まちの嫌いなところ

自然が失われつつある

その自然が破壊されている

質問：3-2 まちの嫌いなところ

買い物、安い飲食店、駐車場等で生活に不便がある

質問：3-2 まちの嫌いなところ

住んでいる人の気位が高くとりすぎている

お高くとまっている人がいる
よそ者意識
自己中心的である

質問：3-2 まちの嫌いなところ

公共機関、公共施設の利便性に地域差がある

市の施設が浜の方に偏っている
バスの便が良くない
交通の便がJRを境に南北で分断されている

質問：3-2 まちの嫌いなところ

バリアフリーが整っていない

歩道がガタガタで車いす、ベビーカーの通行が不便

質問：3-2 まちの嫌いなところ

活気がなく寂れとしていく

人が少ない
寂れとしていく
活気がない

質問：3-2 まちの嫌いなところ

地域でのコミュニケーションが希薄である

元々住んでいる方と後から住み始めた方の交流が
少ない
閉鎖的で隣近所が疎遠
人のつながりがきれいすぎる（本音でない）
マンションが多くなった

質問：3-2 まちの嫌いなところ

道路や公園のマナーが悪い

道路のゴミや犬の糞が多い
交通マナーが悪い
公園内での自転車のマナーが悪い
（禁自転車にもかかわらずかなりのスピードで走
る）
若い人が礼儀知らず

質問：3-2 まちの嫌いなところ

車の騒音がやかましい

43号線の音がやかましい
車が多すぎるのが嫌

質問：3-2 まちの嫌いなところ

質問：3-2 まちの嫌いなところ

質問：3-2 まちの嫌いなところ

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

日常生活の中でかかわりを持っている

子育てのお母さんの相談相手
目についたごみ拾い
気軽にあいさつ
声かけ

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

地域の団体役員として

自治会・老人クラブ・コミスク役員として
民生委員、福祉推進委員も兼ねている人もいます

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

仕事としてかかわっている

地域のネットワークづくりのための連絡会の副催
仕事としてかかわっている

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

行事に参加する

マンションの行事に出る
地域のイベントに参加する

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

当事者団体

障害者保健者団体
高齢者

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

ボランティアとして

①高齢者、児童などのボランティア活動
(バザー、お茶会などの場づくりを含め)
②環境に関するボランティアもあります

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：4 あなたはまちに、どのように関わっていますか

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

女性の社会進出が増えた。
若いお母さんが外で働くことが増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

ライフスタイルが変わった

ライフスタイルが多様化し
24時間まちが動く

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

親子のコミュニケーションの希薄化

一緒に食事をしていない

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

若年層が増加した

若年夫婦や二世帯同居が増えた
子どもが増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

街並みが変わった

街並みが変わってきれいになったが…
大きな屋敷が減った
緑が少なくなった
小さい住宅が増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

高齢者が増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

震災後治安が悪くなった

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

地元にとけ込んだ店、市場がなくなった

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

マンションが増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

子どもの遊びが変わった

子どもの屋外での遊びが減った

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

近所との連帯感が強くなった

地震や工事等を契機に協力をとりあうようになった

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

外国の人たちが増えた

外国人労働者が増えた

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

車が増えた

車や自転車が増えてマナーが悪くなった

質問：6 私たちのまちやくらし、昔と比べて変わったなあと思うこと【現状】

近所づきあいが減った

隣近所とのつきあいがなく
あいさつもなくなった

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

自己責任と自己決定ができていない

住民の自己責任意識や市民である意識が低いので自分たちで問題を解決する方法を考えたり、行動を起こす意識が低い
行政に頼りすぎている

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

生活水準の格差が大きい

生活水準の格差が大きいいように思う

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

ワンルームマンションの住民との関係ができていない

旧住民がまず声かけをすればどうでしょうかとだワンルームは2年、3年位で転居（転勤）する人が多いので、無理な押しつけも良くない
ワンルームマンションの住民は、単身赴任や一人暮らしなど、自治会に関心を持っている人が少ないので、地域の人たちとコミュニケーションをとるのが難しい現状にある

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

地域のまちづくりをすすめるための人と場所が生かされていない

地域で活躍できる人材の発掘や活用ができていないし、活動の場所もないということ（推測）

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

地域のコミュニケーションが少ない

日頃からの声かけが、隣の人の顔を知り、輪が広がって地域のコミュニケーションにつながるが、個人主義的な人が多い

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

市民の声が市政に反映されていない

市民の声がバラバラであつたり個人的であつたりする。それを集約してまとめてリーダーシップをとる人がいなければ市政に反映されない

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

誰もが安心して住み続けられるまちではない

認知症、高齢者、障がいのある人たちが、地域の住民に理解されずに孤立している
地域の回結がなくなっている

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

ペットなど犬・猫の飼いや方に問題がある

犬の糞尿は人間の糞尿の問題です
野良猫が繁殖するのは行政で犬狩りのように処分するしかないのか
散歩のマナー（糞の始末）が守られていないことや、野良猫にえさをやったり、その猫が繁殖したり、動物による問題が増えている

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

地域に関心がない

地域の問題や自治会活動には無関心で、自己中心的な人が多い

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

ゴミ捨てのマナーが悪い

ゴミの捨て方はマナーが悪いという問題もあるが、分別の仕方がわかりづらく、ルールを守れない現状もある
駅や公園でポイ捨てが多くみられる

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

子どもの教育（しつけ）に関心な人が多い

学力に対する教育には大変関心があるが、人思いややる心や、社会性などを育てる教育には関心がない
課題

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

家庭の機能が低下している

核家族化し、子育てや高齢者の世話等、家族内で問題の解決ができなくなっている

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

総合的な福祉センターが声屋にない

阪神間で唯一福祉センターがなく、障がい者や高齢者や多世代が交流する場所、楽しく過ごせる場所が少ないし、機会が用意されていない

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

地域活動への参加の意識が少ない

地域活動への参加の意識が少ない人もあるので、その人たちに地域活動に参加してもらおうという工夫が必要

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

同じ人が同じ企画をしていて活動が広がらない

自治会のあり方（かわわる人や活動のしかた）が昔からのやり方なので参加する人が決まっています、自治会活動が広がらない

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

新旧住民の交流がない

震災の影響もあり、声屋市への転入と転出が多くなってコミュニティ形成がやりにくい

質問：7 私たちのまちで問題だと思うことは？

人も地域も閉鎖的である

声屋の特性と思うが、個人主義的、自己本位なところが多い
もっと思いやりの心があれば人も地域も変わるのではないかと

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

行政職員の資質の向上

市役所や教育委員会の職員の意識が変わるよう、資質向上のための教育が必要

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

さまざまな分野に詳しい運もれている人材の発掘及び活用。また新たな人事の育成

障がい者関係でも芦屋の詳しい人がよそのサポートをしているのが現状
やる気のある人（定年後の人も含め）をより活用する

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

参加者や活動の担い手の固定化の解消

色々なグループがあるが、それぞれ参加者が固定されていて、新しい人をどう集めるか、活動者はどう分散させるかが課題で、対策が必要

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

みんなが気軽に交流できる行事や機会づくり、及び情報提供（機会や情報の充実）

多くの市民が参加しやすいイベントをたくさん作る
参加者が少ないので、その情報提供も必要

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

総合福祉センターをつくる

地域活動ステーションになるような集える場、交流の場となる総合福祉センターがほしい。震災前に計画されていた福祉センターの建設を願っている。また、既存の建物も使えない状況

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

生活弱者が暮らしやすいまちづくりを進める

障がいのある人や高齢者、子どもが安心して暮らせるまちづくりを進める
そのための環境づくりと、福祉のまちづくりの啓発を進める

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

自治会・コムスク・老人クラブなど手をつないだ横のネットワークをつくる

団体が協力し合った横のつながりを作っていく
コアネットワーク機能を整備する

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

行政、住民と協力してのまちづくり

行政と住民と協力してまちづくりをする
市民協働計画

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

気軽に参加できる地域のコミュニケーションづくり

気軽にあいさつ、声かけする地域
また、よりよいまちにしようという各自の意識の向上

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

声かけ、あいさつから始まる近所づきあいを深めること

住民がそれぞれ関心をもって近隣とのつながりをもつ第一歩として、互いに声をかけあい、あいさつするという誰でも出来ることから始める

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

マンション等の未加入者を巻き込んだ自治会組織の充実と連携

マンション等の未加入者も自治会組織に加入し、自治会全体の連携意識を高める

質問：8 よりよいまちにするために、もっとも必要なものは何だと思えますか？【課題】

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

目標達成のための仕組み作り

目標達成のための仕組み作り
新しく組織を作りたい人のために行政が参加する

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

具体的な生活課題に対応する

福祉について（高齢者へのいたわり）
町並みを整える（ゴミ問題）

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

これから活動をしようとする市民に
対する支援

財政的支援
人材面での支援…人材派遣
場所の提供
活動できる機会を提供する

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

行政と民間の役割分担を明確にする

行政でしか出来ないこと
市民ボランティアまたは、民間でできること
そして協働できることの役割分担

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

既存の市民活動・グループに対する支援

財政的支援
人材面での支援…人材派遣
場所の提供
既存のグループをネットワーク化する
いろいろなるグループが一緒に活動できる機会をつ
くる（旗振り）

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

行政内での連携を強化する

仕事の範囲を超えて働ける態勢、柔軟性

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

施策、目標の設定

民間都市運営のような福祉のビジョンや施策を示
してほしい
施策目標を具体的に説明して実施状況を詳細に知
らせてほしい

質問：9-1 よりよいまちをつくっていくにあたり
行政に求められる役割は？【対策の方向性】

市民（住民）の声を聞く

市民の意見をしっかりと聞き、施策を進めてほしい

質問：9-2 よりよいまちをつくっていくにあたり
地域や個人に求められる役割は？【対策の方向性】

近隣の人とのコミュニケーションを深める

地域住民は日常生活の中で挨拶をかわし、声をか
けあえる関係をつくるのが大切である

質問：9-2 よりよいまちをつくっていくにあたり
地域や個人に求められる役割は？【対策の方向性】

住民相互の連携

ネットワークづくり
地域住民団体の運営
身の回りの情報を集め顔見知り関係を作っておく
各団体に協力

質問：9-2 よりよいまちをつくっていくにあたり
地域や個人に求められる役割は？【対策の方向性】

人まかせにしない！

地域の一員（市民）としての意識を持ち、自分が
何が出来るか、参加、協力を積極的に行い、より
よいまちづくりのための努力する
行政に関心を持つ

質問：9-2 よりよいまちをつくっていくにあたり
地域や個人に求められる役割は？【対策の方向性】

自分の周辺への気配り、目配り

まわりを見回すと、ニーズを持っていても声に出
せない方や、活動に参加したいと思っても「一歩」
を踏み出せない方もおられます。ちよっとした配
慮でそのような方の声を大切にし、活動への参加
を促すことができます

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身に
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

NPOの社会事業への脱靴

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身に
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

障がい者にとって安全、安心して暮らせる
まちづくりを進める

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

ボランティア活動を定める

徘徊ネットワークの充実
聴覚障害者の振替者にならないように啓発
大規模の始動の輪を広げる
町内清掃、即づくり、使い走り、傾聴ボランティア、植
ア、資源ゴミリサイクル、手話、コンサート、植
栽、障がい者支援、組織運営、人形劇、IT、子
育て支援

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

あいさつ、声かけをする

出会った人にあいさつ、声かけ
笑顔であいさつ
一人暮らしの方への声かけ
マンションの住人、エレベーター内でもあいさつ
子どもたちへの声かけ

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

自己啓発

介護の練習
男がでける料理

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

人の輪（ネットワーク）を広げていく

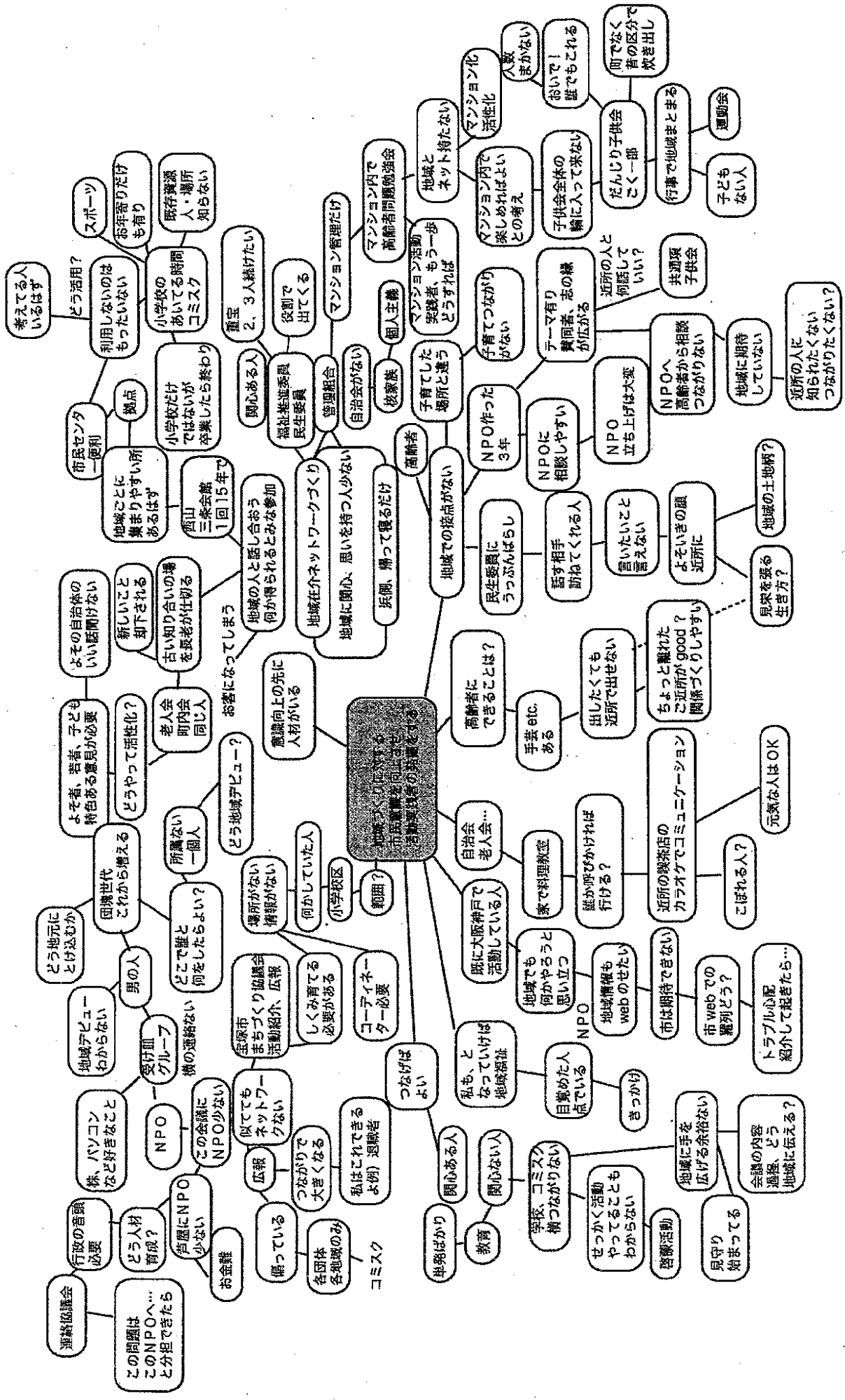
コミスク活動
地域行事
グループ活動への参加
交流の場づくり

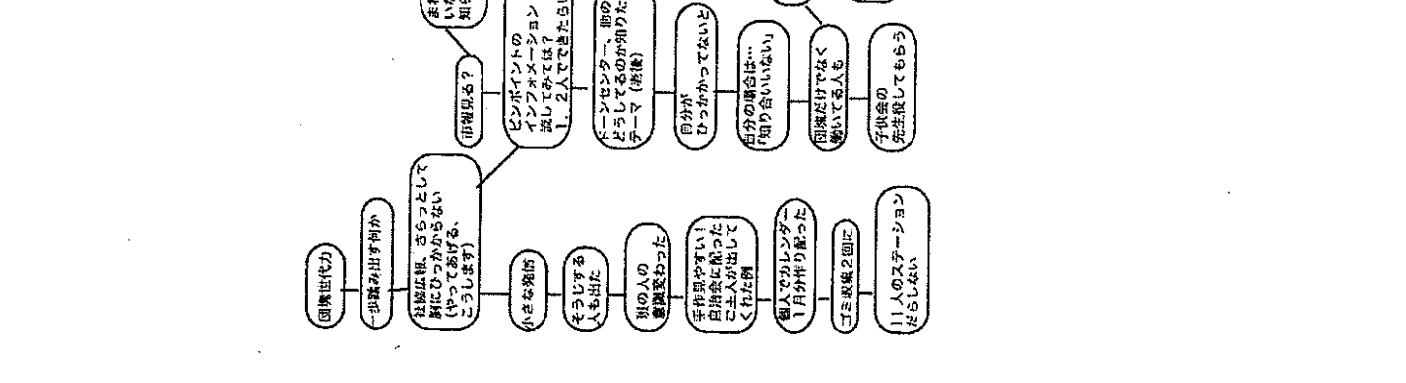
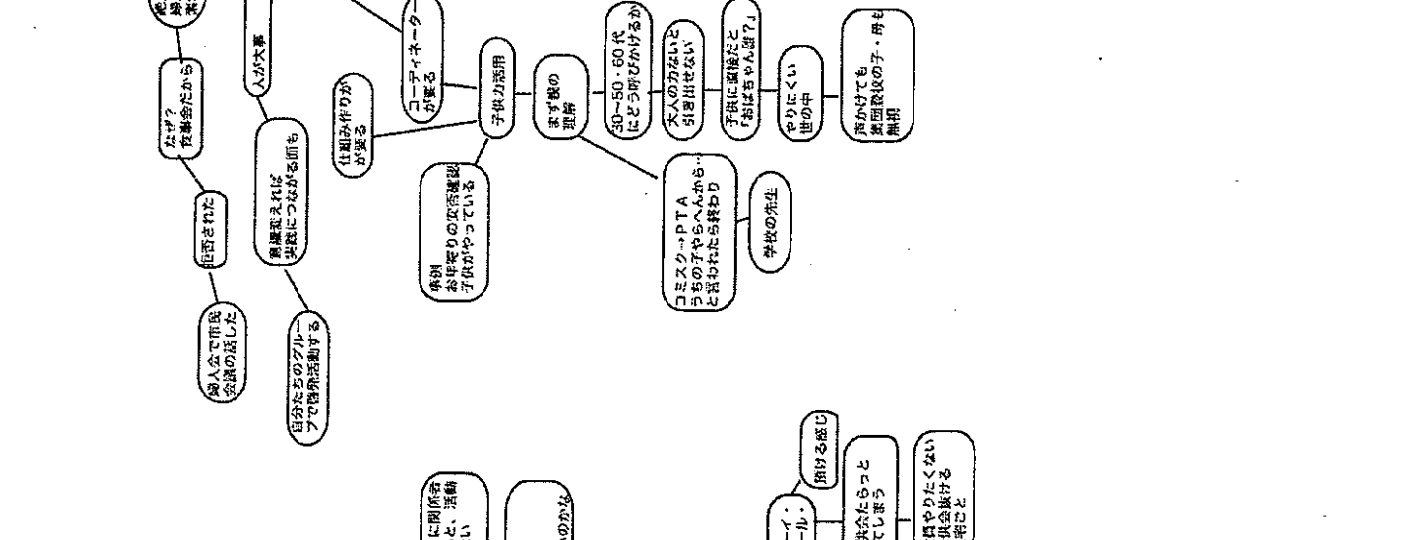
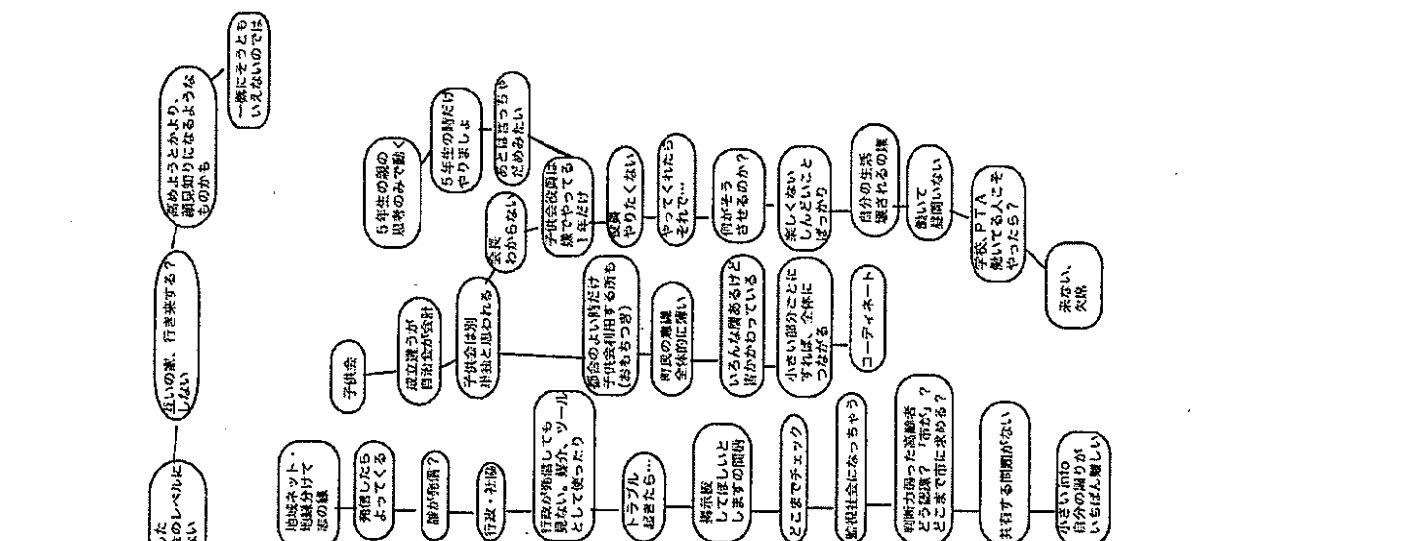
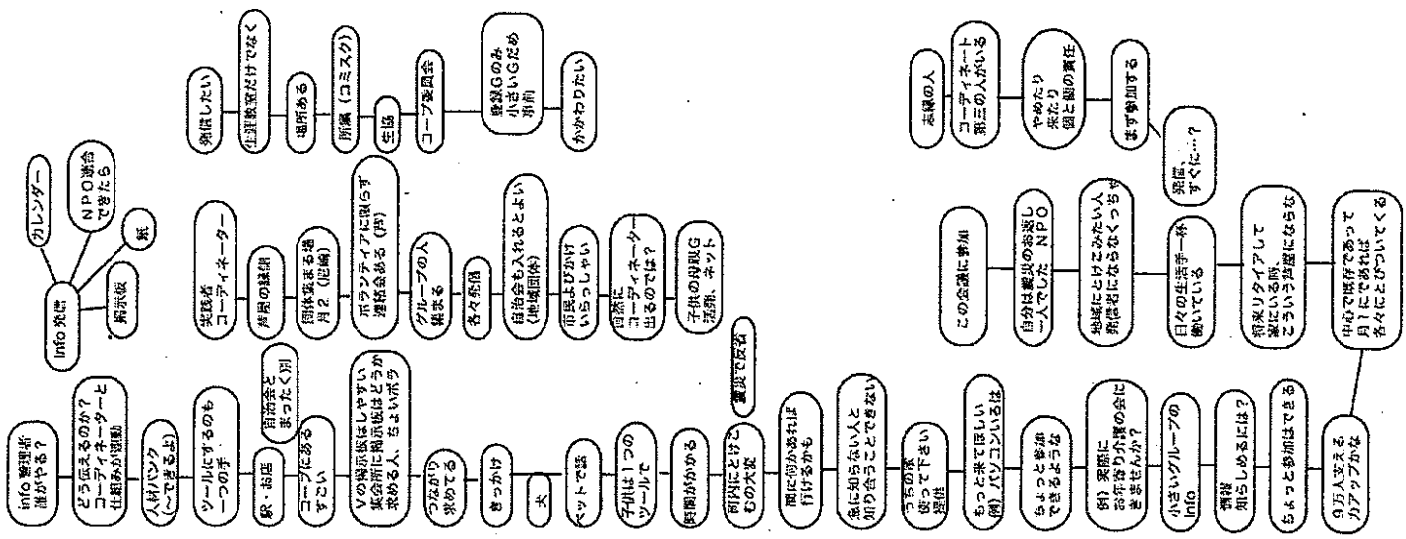
質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

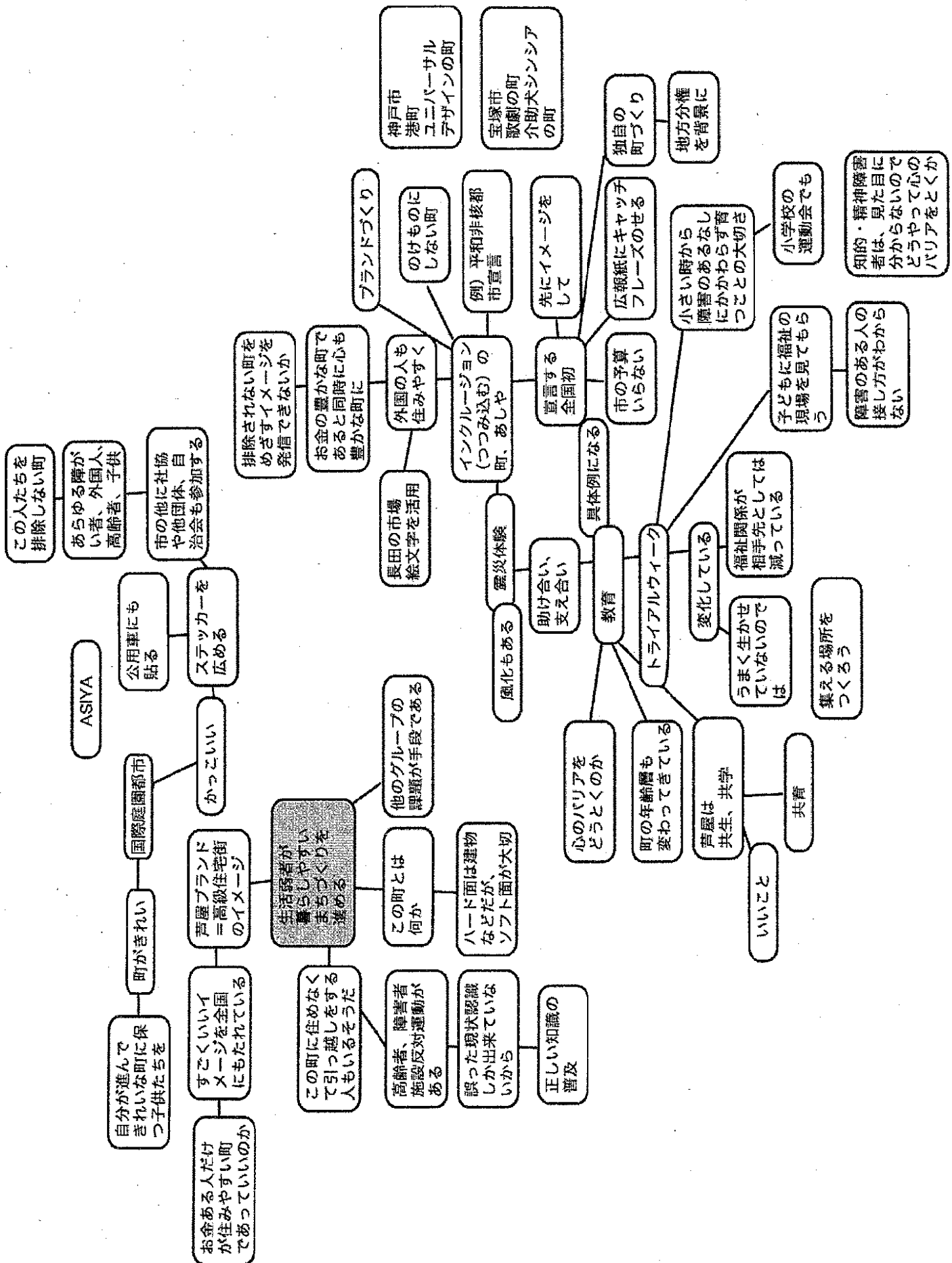
質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

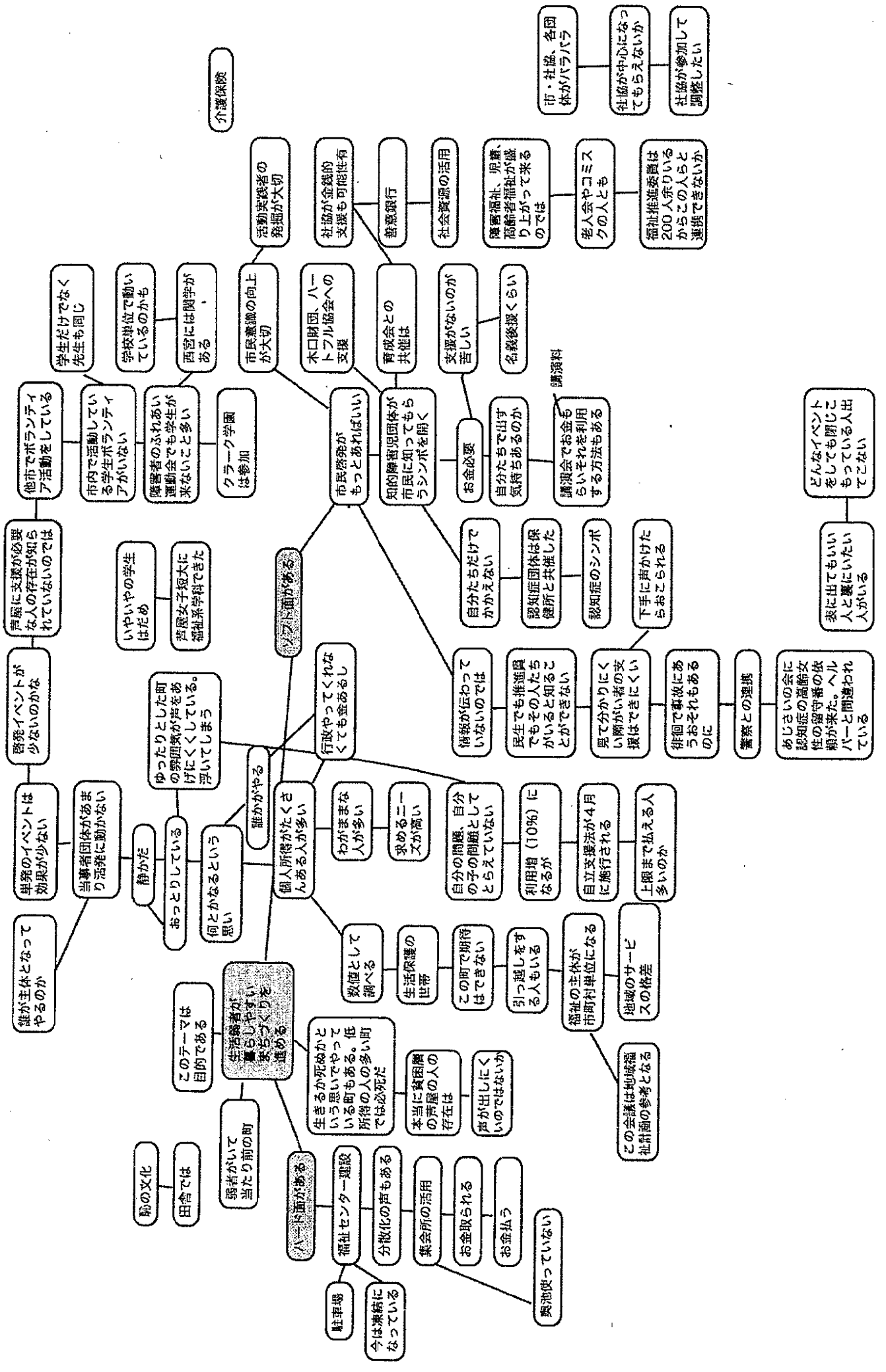
質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

質問：10 よりよいまちにするために、あなた自身
できそうなこと（やってみようと思うこと）は何ですか？

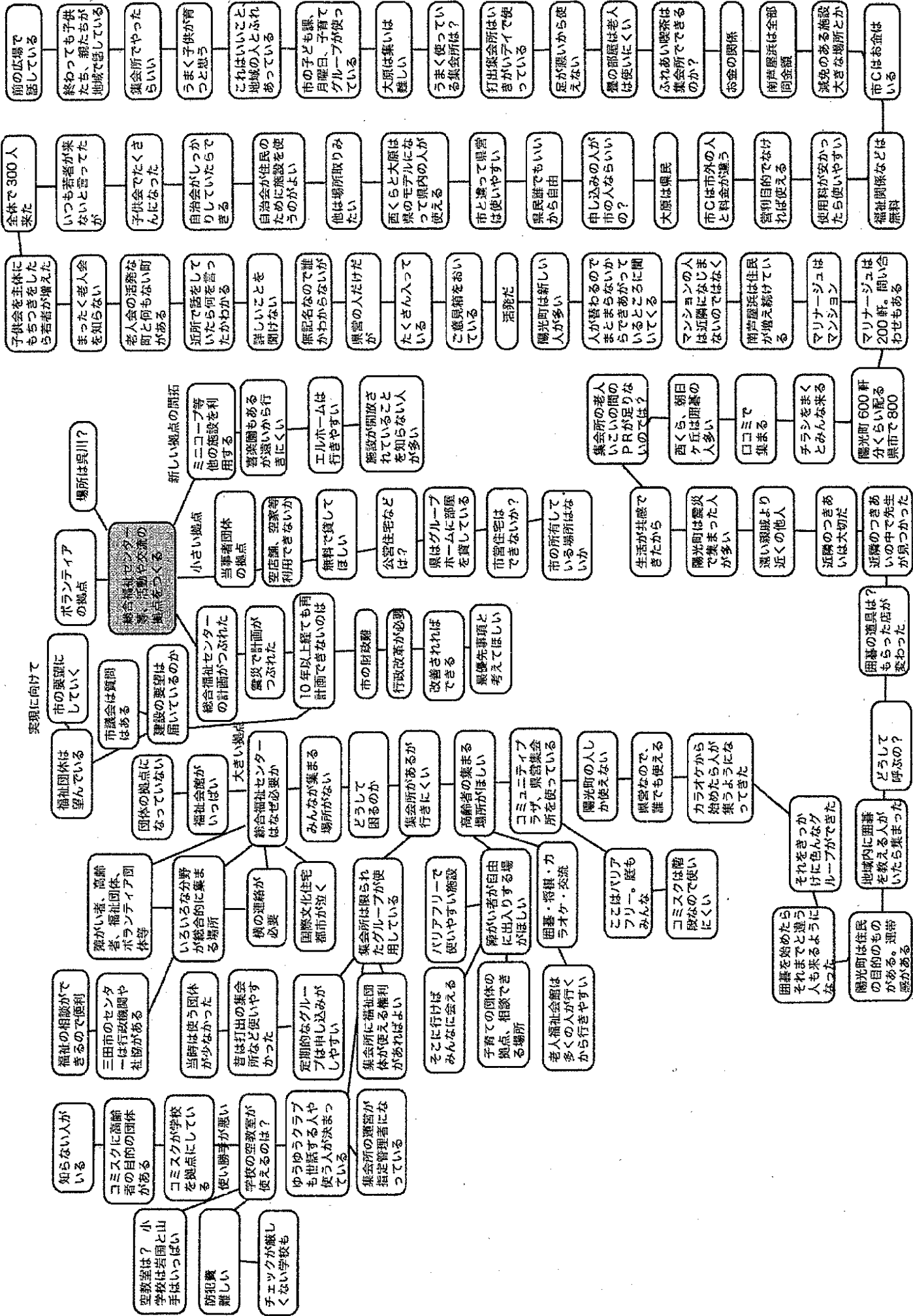








実現に向けて



場所は今この福祉会館のところがいい

お風呂を使う人は多いか？

多い

本当に出てきてほしい人が出てこない

どうやって探すか？

生かすアイもいつも同じ人

人を広げることの意味がある

掲示板に貼るが誰も見ない

口コミで来る

掲示板を見て来る人もいる

県営のエルベーターホール

若い人たちが

子供を連れて出向く

既設の施設に出向いて

利用する

行政に向けて希望するために

福祉センターの建設について

要望していく

西くらの掲示板は誰もみない

楽しい掲示板をつくる
掲示板を活用する

他の施設は？

エルホームはたくさん開放している

申し込んで空いてたら使える

エルホームは介護してくれるところ？

関電の寮のあと

浜町にある

老人会、福祉推進委等が使っている

バッチワーク

子育てグループやコーラスも使っている

部屋も借りれるし交流スペースも使える

養老苑は遠いのでエルホームの方が使いやすい

あしや温泉を活用する

足湯でもみんなが集まって話している

きたない！

金泉でいい湯 52~53℃

多くの人がいる

交流の場になっている

他市からも来ている

高齢者が多いが若い人も子供と来ている

年齢層も多い

足湯の出前がある

希望したらトラックにいっぱいくれる

旧山部で足湯をやった

雪と湯をもっていく

自治会が住民

総合福祉センターの必要性を

関係者レベルから市民の要望に

市の最優先事項として取り組むよう

要望する

ミニコープ

部屋代がある

呉川と打出は使っている

ペルポートにもコープができる

ペルポートの2階は地域に開放してくれている

主婦同士の話ができているのはいいい

朝日ヶ丘は小学校を使っている

集会所はいつでも集まる場所が多い

申し込みが2か月前でないといけません

中学校は借りられないの？

ゆうゆうクラブはどうして借りるの？

ゆうゆうって何？

高齢者が自由に使える場

朝日ヶ丘と潮見にある

地域に開放したら悪い人が入ってこないか？

福祉推進員がゆうゆうの時は門の前で立つ

札を渡して校内に入ってもらおう

事件があったって学校は使えない

作品展など自由に使えればよい

関係のみえる
関係づくり

まとめるのは無理
自治会長を兼ね
ている人もいる

市会議員は？
半分にししたら

自治会長が副査員
100%回収率
2人で
訪問した

あいつに
来たときに
100%加入
すこい

管理者が変わる
と引き継ぎがう
まくいかない
毎年管理組合
がメンバーが
変わる

地域懇談会で本音を言う
とつぶされやすい
集合所トーク
反対意見に
先入観

自主防災組織
をつくる
防災倉庫
種

町内で防犯組
績をつくる
山手は高齢者がかりとか、
寂があるって参加できない

あんまり役に
立っていない
自治会長のマ
ニュアルが必要
できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

実行事や問題
解決に参画

地域の窓口
も1つでない
地域の窓口に
参画

自治会役員は？
半分にしたら

自治会長が副査員
100%回収率
2人で
訪問した

あいつに
来たときに
100%加入
すこい

管理者が変わる
と引き継ぎがう
まくいかない
毎年管理組合
がメンバーが
変わる

地域懇談会で本音を言う
とつぶされやすい
集合所トーク
反対意見に
先入観

自主防災組織
をつくる
防災倉庫
種

町内で防犯組
績をつくる
山手は高齢者がかりとか、
寂があるって参加できない

あんまり役に
立っていない
自治会長のマ
ニュアルが必要
できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

スクラップ
&ピルトルド

管理センター限まで
申し込みが大変
浜の方、「ふれあい」
のようなことはない

困っている人？
大原はエスレ
ーターも
お金のななくて
も増やせない
管理指定者

集合所
ないところも
あるし

集合所
集合所
おなじ人があれも
これちやっている
同じ人があれも
これちやっている

自治会と老人クラブ
の組織が違う
地域分けが
違う
お互いに頑張
っているのに

老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている
子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも
何とかがして

若い人の参加
は望めない
自治会連合事務局
たった3人
働けない

行政が強い
いてない

ボランティヤ
いるんな人材が
集まってきた

自治会役員は？
半分にしたら

自治会長が副査員
100%回収率
2人で
訪問した

あいつに
来たときに
100%加入
すこい

管理者が変わる
と引き継ぎがう
まくいかない
毎年管理組合
がメンバーが
変わる

地域懇談会で本音を言う
とつぶされやすい
集合所トーク
反対意見に
先入観

自主防災組織
をつくる
防災倉庫
種

町内で防犯組
績をつくる
山手は高齢者がかりとか、
寂があるって参加できない

あんまり役に
立っていない
自治会長のマ
ニュアルが必要
できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

行政が強い
いてない

自治会連合事務局
たった3人
働けない

若い人の参加
は望めない

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている

子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

自治会役員は？
半分にしたら

自治会長が副査員
100%回収率
2人で
訪問した

あいつに
来たときに
100%加入
すこい

管理者が変わる
と引き継ぎがう
まくいかない
毎年管理組合
がメンバーが
変わる

地域懇談会で本音を言う
とつぶされやすい
集合所トーク
反対意見に
先入観

自主防災組織
をつくる
防災倉庫
種

町内で防犯組
績をつくる
山手は高齢者がかりとか、
寂があるって参加できない

あんまり役に
立っていない
自治会長のマ
ニュアルが必要
できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

行政が強い
いてない

自治会連合事務局
たった3人
働けない

若い人の参加
は望めない

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている

子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

行政が強い
いてない

自治会連合事務局
たった3人
働けない

若い人の参加
は望めない

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている

子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

行政が強い
いてない

自治会連合事務局
たった3人
働けない

若い人の参加
は望めない

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている

子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる

行政が強い
いてない

自治会連合事務局
たった3人
働けない

若い人の参加
は望めない

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

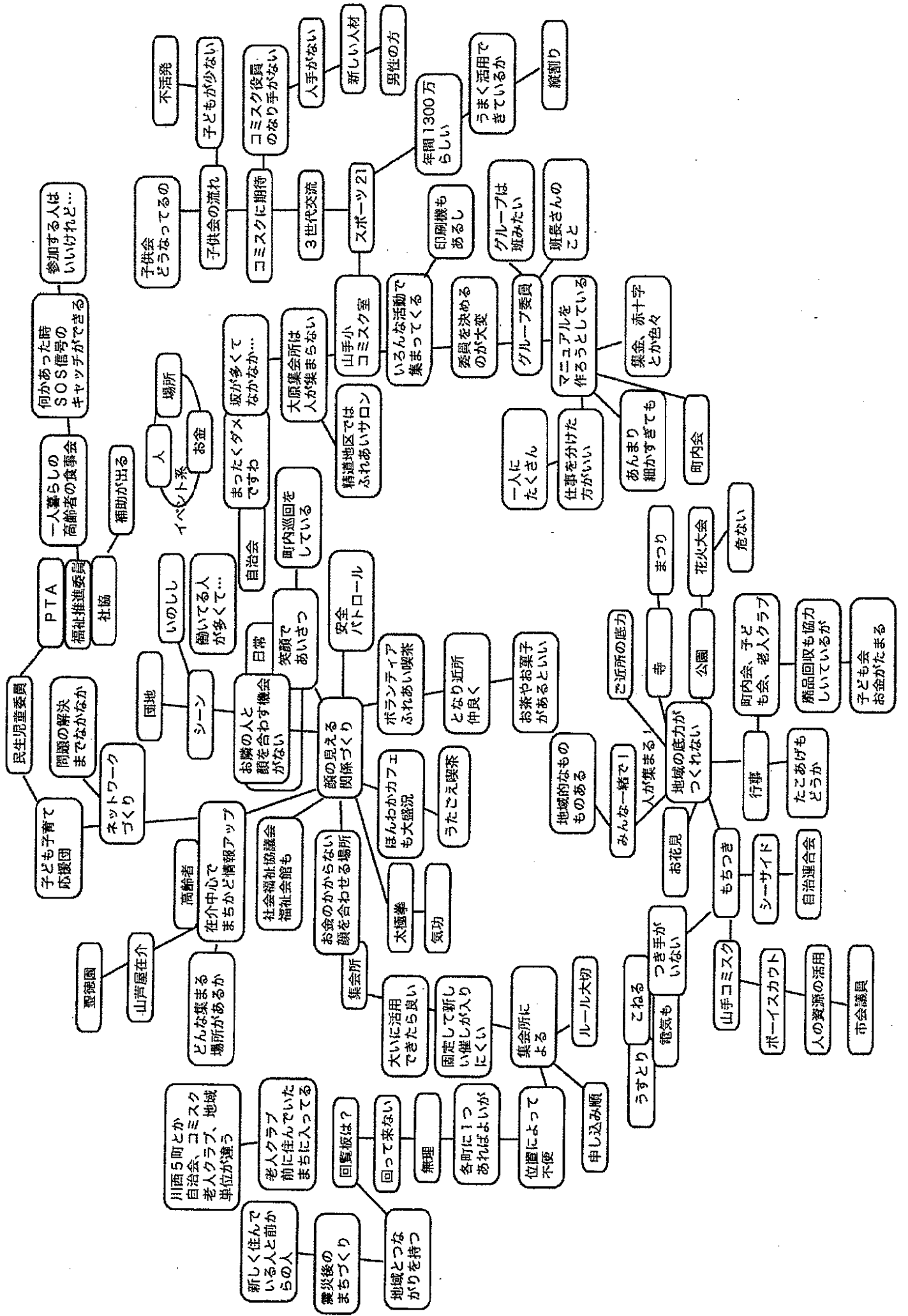
老人クラブ会長と
自治会副会長を
兼ねている

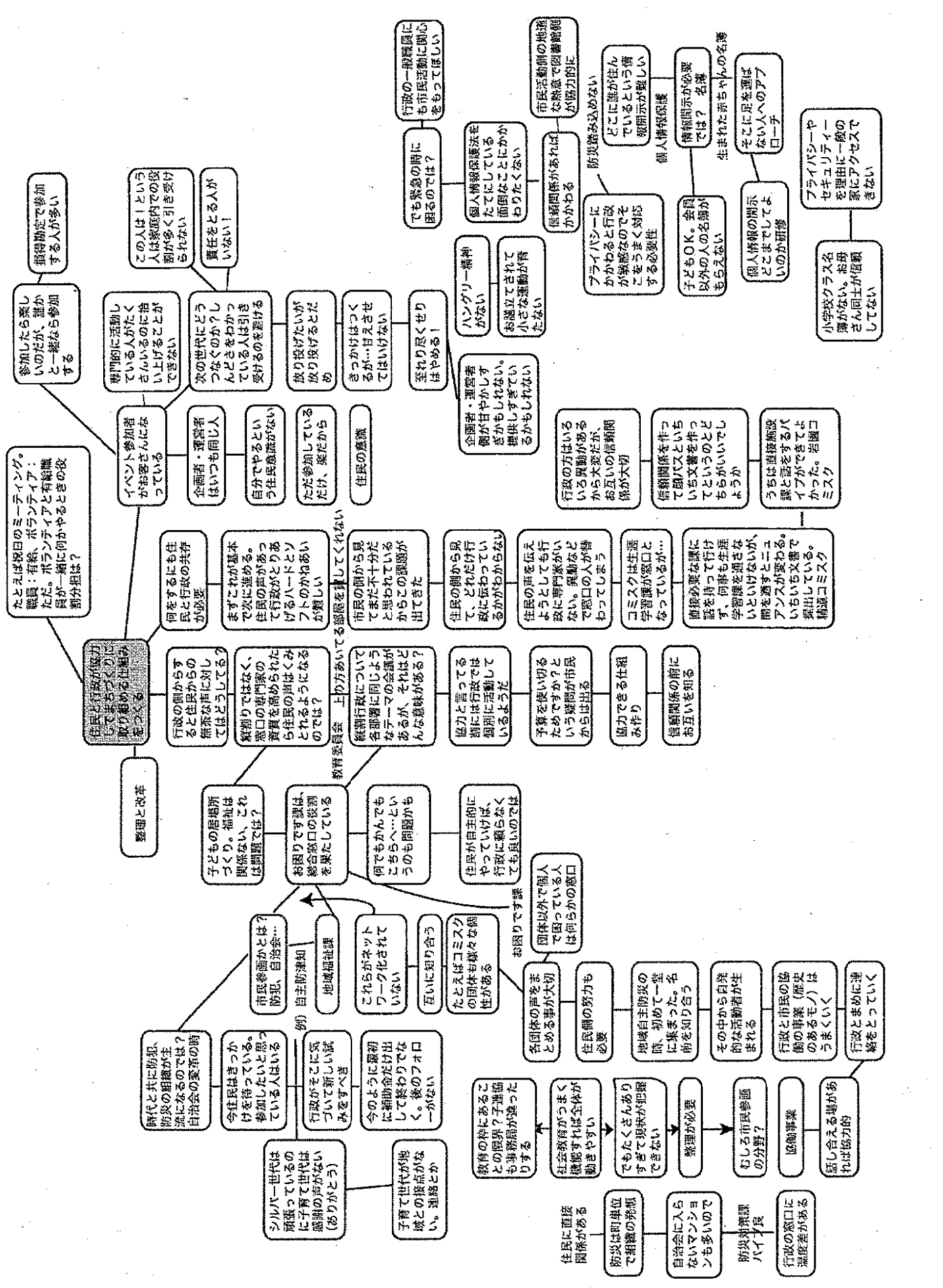
子供会の会長も
副会長になっている

老人クラブ、
民生委員もあれも
これも

何とかがして

できない！って
言ってる人たちが
できることを
上から
言われる





たといは祝日のミーティング。
職員：有給、ボランティア、
職員が一緒に何かやるときは役
割分組は？

参加したら楽しいのだから、誰か
と一緒に参加する
参加したらいかに楽しいのだから、誰か
と一緒に参加する

専門的に活動して
いる人がたくさん
いるのに、参加
できない
この人は！という
人は家庭内での役
割が多引受け
られない
責任をとる人が
いない！

イベント参加者
がお客さんにな
っている
企画者・運営者
はいつも同じ人
自分でやること
はいつも同じ人
自分で行うとい
う住民意識が
ない
ただ参加して
いるだけ、楽だから

何をやるにも住
民と行政の共有
が必要
まずこれが基本
で次に進める。
住民の声があ
る行政がとら
けるハードと
ソフトの両方
が難しい

行政の側から
みると住民から
無茶な声に対し
てはどういう
対応が
必要か
行政の側から
みると住民から
無茶な声に対し
てはどういう
対応が
必要か

親子の思慮所
づくり。福祉は
関係ない、これ
は問題では？
お困りで課題は、
総合窓口の役割
を果たしている
何でもかんでも
こちらへ...とい
うのも問題かも
ない

市民参画かとは？
防犯、自治会...
地域福祉課
これらがネット
ワーク化されて
いない
互いに知り合
う
たといはコミ
ュニケーション
の団体が
ある

時代と共に防犯、
防災の組織が生
活になるのは？
自治会の愛着の
弱体化
今住民はきつ
か
けを待っている。
参加したいと思
っている人は
いる
行政がそこに
気
を配るべき
今のよう
に最初
に補助金だけ
出して終わ
りな
い。後の
フォローが
ない

市民参画かとは？
防犯、自治会...
地域福祉課
これらがネット
ワーク化されて
いない
互いに知り合
う
たといはコミ
ュニケーション
の団体が
ある

市民参画かとは？
防犯、自治会...
地域福祉課
これらがネット
ワーク化されて
いない
互いに知り合
う
たといはコミ
ュニケーション
の団体が
ある

市民参画かとは？
防犯、自治会...
地域福祉課
これらがネット
ワーク化されて
いない
互いに知り合
う
たといはコミ
ュニケーション
の団体が
ある

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

市民活動の現状
市民活動の課題
市民活動の推進
市民活動の普及

よりよいまちにするための万策

～地域福祉市民会議第5回会議まとめ～

プロジェクト 33 地域づくりに対する市民意識を向上させ、活動実践者の発掘・育成をする

地域の情報交換連絡会をつくり、運営していく

中学校区、できれば小学校区で情報交換をする場所をつくり、コーナー・インターネットをおく
情報発信、交流をする

地域の情報交換連絡会を開催する
ための場を提供する
(個人・グループ大名刺交換会)

ボランティアグループだけでなく、NPOや個人の情報掲載する掲示板の設置を商店、生協などと交渉する

プロジェクト 30 総合福祉センター等、活動や交流の拠点を つくる

たとえばあし湯など、知られていない交流の場を口コミでもっと周知する

総合福祉センターの必要性を関係者レベルから市民の要望にしていく

福祉の総合施設としての拠点を、市の施くりを、市の施策の最優先事項にする

既存の施設や拠点を有効利用する。若い人たちも子どもを連れて出向いていく

プロジェクト 21 住民と行政が協力してまちづくりに取り組める仕組みをつくる

市民活動にかかわる人は
・無理をしない
・自分ができることをできる時に
・情報を共有する
・何がしたいか、何ができるかを考える

プライバシーや個人情報保護についてみんなど考え直す

行政職員の専門知識に個人差があるので、福祉・人権などの職員研修を行う

行政システムや部署を、市民にわかりやすく整理する

住民と行政が同じ視点や意識をもつために行政職員は、ボランティア活動を理解し、現場を知るよう心がける

プロジェクト 32 生活弱者が暮らしやすいまちづくりを進める

宣言ステッカーを家や自家用車にはる

ステッカーの普及(配布)に社協、自治会、福祉団体なども参加する

障がい児者も高齢者、外国人もみんなが住みやすいまちづくりをめざして「インクルージョンのまち・あしや」宣言を全国に先がけてする

家庭の中で福祉を話題にする

福祉についての知識普及のため、シンポジウムや講演会を積極的にを行う

中学生の職場体験「トライやるウィーク」で、福祉の現場をよく見てもらう

プロジェクト 14 自治会、コミスク、老人クラブ等、地域のグループや団体の横のネットワークをつくる

笑顔であいさつをする
～ご近所づきあいを大切にして地域とつながりを持つ

地域で行事を開催することによって、まずは顔の見える関係づくりをする
～花見、夏祭り、もちつき等、各種団体一つになつてネットワークづくりの第一歩を始める

スクラップ&ビルド
～行政組織を整理して(縦割りでなく)地域とのつながりを一本化する

■は個人・家庭レベル
■は地域レベル
■は行政レベルでの方策。
各課題のタイトルは、優先順位を決める投票時の得点にちなみ、「プロジェクト33」などにつけた。

インクルージョンのまち・あしや宣言をする

(インクルージョンとは「包み込むこと」という意味の英語)

宣言をブランド化するためにステッカー(マーク)をつくる

ステッカー(マーク)を広報紙に掲載したり、公用車にはり、市民が目につくようにする

掲示板を活用する。交流の拠点を、利点をつくるには利用することが大切。掲示板を見るクセをつけるために啓発していく

7. 市民会議ふりかえりコメント

ふりかえりシートに記入されたコメントのうち主なものは、以下のとおり。

【第1回市民会議】平成17年10月23日

◇私が学んだのは

(福祉・地域福祉)

- ・ 地域福祉の大切さ。地域福祉の幅の広さ。地域ボランティアとは。
- ・ 市民の一人として、広い意味での福祉をもっと考えていかなければならないということ。

(ワークショップ・会議運営)

- ・ ワークショップとは何か、またその進め方。LOVEの精神。
- ・ みんなに話のきっかけを作ってあげるファシリテーターの上手な進行。
- ・ ワークショップにより、他人といかにつながりを持つように語りかけるか。
- ・ 動き回ると活気づくこと。

(会議メンバーについて)

- ・ 心優しい方が多い。
- ・ 良い出会いが出来たこと。
- ・ 芦屋市で、こんなにたくさんの方々が福祉に携わっていること。
- ・ 地域福祉に関心のある方がいることの心強さ。

(その他)

- ・ 市民の現実の声、実感を(行政)が知るのは大変難しいものなのだとということ。
- ・ 命をつないでいくことの意味。そのことの大切さ。そのことに一人ひとりが出来ることから無理をせず、かかわることが大切であり、それは誰にでもできるということをみんなの共通認識にしたいと思った。

◇私が改めて学んだのは

(福祉・地域福祉)

- ・ 福祉の意味。
- ・ 地域福祉の取り組み、大切さ。

(ワークショップ)

- ・ ワークショップの意味。
- ・ ファシリテーターの進め方が、整理されていてわかりやすかった。
- ・ パネルを使った上手な説明。自分も利用できるよう心がけよう。
- ・ 牧里先生のお話やワークショップを通じて、これからの時代のキーワードは共生、地域社会づくりであること。違いをありのままに認め合い、心豊かなまちを作り上げていくことなどの大切さを改めて感じた。

(まちづくり・市民参加)

- ・ 行政ではなく、市民の声を聞く。市民参加が重要。
- ・ (役割として)仕方なく出席しましたが、それ(消極的な姿勢)では駄目だということ。
- ・ 一人ひとりが自由に声を出すことの大切さ。
- ・ 住んでいる一人ひとりが当事者であり、提供者であるということ。

(その他)

- ・ 芦屋市を最も愛し、大切にしたい気持ちが強い人たちが多く、6回の会を充実したものにしたい。
- ・ 仕事としてではなく、市民として、人との関わりで福祉に関わっている人が多いということ。
- ・ 「一本の樹」を見て、人間の可能性の素晴らしさ。
- ・ 身近なところからスタートしなければ…ということ。

◇私が気づいたのは

- ・ 多種多様な価値観の方がおられること。
- ・ 一般公募の方が多く、とても積極的で好ましいと感じた。
- ・ いろんな年齢層の人、地域の人が集められた会議で、また、皆さんマイクを持つとしっかりしゃべる人が多い。
- ・ 皆さん、同じように地域をよくする為に何かしたいと考えている。横の繋がりを必要としている。
- ・ 勉強不足。
- ・ 福祉とは、特別なことではなく、日々の暮らしの中にあることだということ。
- ・ 参加者の認識として、「福祉」「地域福祉」の言葉の意味を統一したことがよかった。
- ・ 人と知り合うことの大切さ。コミュニケーションの難しさ。
- ・ 違う世代の人と知り合う機会はなかなかないものだとということ。
- ・ 日頃気づいていることを十分に伝えたい。
- ・ 地域での基盤づくりの重要性。

◇私が驚いたのは

- ・ 20代からボランティアについて真面目に考えている人がいること。
- ・ 若い世代にも地域に関心のある方がいる。
- ・ 参加メンバーが地域的に偏りのないメンバーだったこと。

- ・参加メンバーが地域的に偏りのないメンバーだったこと。
- ・参加しておられる方々の中に「熱い思い」を持っておられる方が多かった事。
- ・参加者の年齢の幅が広いこと。
- ・公募の方が多数おられたこと。
- ・皆、前向きで熱心だなあ。
- ・知っている顔がたくさんあるなあ。
- ・ともすれば福祉とは狭い専門分野内の人間による話し合いになりがちだが、市民会議はさまざまなことに取り組んでいる市民で作られている。とても重要なことだと思う。

◇私がうれしかったのは

- ・世代を超えて知り合えたこと。
- ・今まで話したことのない人と話して仲間として知り合えたこと。
- ・新しい知り合いが出来たこと。連帯感を感じました。
- ・他己紹介は楽しかった。いろんな世代が参加しながら共通の意識で会が進むのがおもしろい。
- ・初対面でも、目的は同じだったこと。
- ・悩んでいたが、出席してよかった。何とか続けたい。
- ・皆さんやさしかったこと。
- ・最後にみんなが笑っていたこと。
- ・地域活動のあり方を、私と同じように考えている人がいること。
- ・行政の方の中で、今の縦割り行政の問題を強く感じておられる若い人と知り合えたこと。

◇私がかかりしたのは

- ・在日外国人の方が見受けられなかったこと。地域の主人公の一人だと思う。
- ・若い人がもっと多ければ。また、20代、30代が3人では少ないと感じた。
- ・事務局、とくに市職員の方々ももっと一緒に参加すればよかったのに。
- ・縦割り行政がなかなか改善されていない現実。定時制住民のこと。
- ・牧里先生の話をもう少し長く聞きたかった。他県、他市の例など。

◇私にとって必要だとわかったのは

- ・自分の思いを的確にわかりやすく相手に伝える話し方。
- ・老人会の世話をしているので、老人福祉だけを考えていたが、さらに拡大して考える必要がある。
- ・自分自身から何かを発信すること。
- ・もっとさまざまな立場の人と知り合い、話し合うこと。
- ・芦屋市内をよく知ることに。その前に町内を知ることに。
- ・ボランティア、供益者の重要性を勉強し、周囲に伝える。
- ・前向きな姿勢。行動力。
- ・市民一人ひとりの意見を大切に把握したい。
- ・人とのつながり。
- ・人とのコミュニケーション、ネットワーク、地域の輪、市民とのかかわり。
- ・地域とのつながり、他の町民とのつながりが地域福祉につながっていく。

◇私がこれから実行しようと決めたのは

- ・なるべく欠席なく会に出席し、いろんな意見に耳を傾け学びたい。
- ・積極的に意見を出していきたい。
- ・LOVEの気持ちで。
- ・第6回までの日常生活で、地域の課題やその解決への提案を具体的に考えてみよう。
- ・ここで勉強したことを地域で生かしていきたい。
- ・皆さんのご意見も参考に活動したい。
- ・参加しているさまざまな方と知り合い、現在行っているネットワークづくりに生かしていきたい。
- ・まず人の話を十分に聴いて、内容の理解をすることから始めようと思いました。人の話をとってしまう傾向があるので。
- ・地域の中でもう少しおしゃべりできる人をつくろう。
- ・まず、私自身が引きこもりの人に会って行く決心をした。
- ・駅までの短い道のりを注意して歩いてみよう。道順を変えて歩いてみよう。そうしたら知らなかった地域が少しでも見えるかもしれない。
- ・皆さんの意見を地域福祉計画にのせることができるように調整すること。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・「一本の樹」はとてもよかった。問題の行方がネガティブオンリーではなく、小さな形、場面で笑顔や喜びにつながっていった点が印象的だった。
- ・ワークショップのテキパキした進め方。ふりかえりシートを書く時間のバックグラウンドミュージックを使う手法に感心。
- ・まだ年をとりたくない。圧倒されないでチームに貢献できるよう、気分を盛り立てたい。
- ・今までの会議とは違う、本気で考える会にするためどうしたらよいかを考える。

【第2回市民会議】平成17年11月15日

◇私が学んだのは

(発見と交流)

- ・視点の違い。地域によって問題点が多岐になる。
- ・皆さんの熱心さ。参加者が地域のことをよく知っているということ。

(ワークショップ)

- ・ワークショップの進め方が大変興味深かった。実際にやってみることもあるがとても参考になりました。
- ・たくさんの人がいる中での話題の出し方(会合の進行)。一つのことをみんなで学ぶことの大切さ。
- ・気軽に話し合うことが、本音で話ができるということ。

(その他)

- ・この機会を生かしてもっと地域の人とのつながりを大切にしたい。
- ・芦屋市について、自分の住むまちについてもっと考えること。
- ・自治会、組織体の活性化。
- ・福祉計画のビジョンを作り上げるのが、この市民会議かもしれない。

◇私が改めて学んだのは

(ワークショップ)

- ・地域での会議の持ち方に、「即答フリップ方式全員参加型ディスカッション」や「パースデーライン」が参考になりました。
- ・ファシリテーターの上手な問いかけ。
- ・お金がなくても場所がなくても、人が集まれば良い知恵も出てくるということ。

(地域での交流)

- ・地域活動(自治会活動)への理解がないこと。
- ・市民として、自分が地域と関わりが少ないことを実感した。
- ・交流の大切さ。問題意識を持つこと。気づくこと。
- ・障がい者が交流する場所が少ない。

(その他)

- ・自分の住むまちを大切に思うこと。自分が芦屋市民であることを再認識。
- ・何か役に立ちたいと思っている市民が少なからずいること。
- ・住民が行政に対して求めていること。
- ・地域にあるさまざまな課題。

◇私が気づいたのは

(メンバーについて)

- ・女性が元気。女性のパワーはすごいです。
- ・必ずしも活動家ばかりの集まりではないこと。
- ・いろいろな形で地域に関わっているが、時々こういう気づきの場がないと惰性のままに活動して、とりあえず行事をこなしていくことに重点が置かれ、「交流の場を提供し、皆さんにいかに多く集まってもらうか」といった本来の目的を見失ってしまいがちになること。

(発見と共有)

- ・(一人暮らしの食事会や生きがいデイサービスなど)何にも参加してこない方に、どのようにすれば参加してもらえるのか困っていましたが、同じ事に困っている人たちが他にもいたこと。
- ・住んでいる町や年代によって、意識や状況や課題に違いがあること。
- ・自分の住んでいるまちが好きだということ。
- ・自分のミッションの確認。

(その他)

- ・一住民なので自分自身のことでは考えられず、老いに対する関心しかなかったが、障がいのある方々も住みやすいまちにしなければならない。
- ・仕事上高齢者と関わる人が多いので、まちへの関心はすべて仕事に関係している。環境や平和も大切にしたい。
- ・行政に求めるものと、自分たちでできること。

◇私が驚いたのは

(さまざまな視点、地域の多様性と共通点)

- ・コミスク活動などでいろいろ行事を呼びかけているが、あまり知られていないこと。
- ・それぞれがいろんな考えを持っていらっしやること。自分の視野は狭い。
- ・同じ市内でも参加者の住む場所によって、まちの美しさやゴミの問題、子どもの環境やマナーなど感じ方が違うこと。
- ・(近所の人の顔がわからないなど)地域で感じていた問題を、他の人も感じていたこと。
- ・町内で、自治会、子ども会などで対立しているところがあること。

(メンバーについて)

- ・きちんとした目標や問題意識をもって参加された方がけっこうおられたこと。
- ・熱い思いの方が大勢おられること。
- ・若い女性も積極的であること。男性の割合が少ないこと。

- ・福祉活動等に深く関わっている人が多いこと。
- (その他)
- ・行政にはもっと市民の声を聞いてほしいという声。行政の人間としては、市民の方の声は機会あるごとにお聞きしているような気になっていたが、まだまだ足りないことに改めて気づきました。
- ・地域自治は、10年20年では育たない。

◇私がうれしかったのは

- (出会い)
- ・いろいろな立場の方と話ができたこと。たくさんの意見をうかがえたこと。
- ・毎回知り合いが増えること。
- (ワークショップ)
- ・今日の会が楽しかったこと。
- ・少し場慣れしてきたこと。
- ・小さなグループで意見交換して時間を共有できたこと。
- ・思ったほど紛糾することがなかったこと。
- (メンバー)
- ・行政に関心のある人が多いこと。
- ・みんながよりよい芦屋を考えていること。
- ・男性から「料理を習いたい」という発言があったこと。自立に料理は不可欠。
- (その他)
- ・参加者が各地域や自治会で声かけや行事など、日々取り組んで積み重ねておられることがわかった。
- ・コミスクの活動を知ることができた。

◇私がかかりしたのは

- ・児童福祉に関係する団体が来ていないような気がする。
- ・地域活動に参加されている人に偏りがある。もっと多くの人に参加してほしい。
- ・芦屋市の「まちづくり懇談会」と日程が重なっていたこと。懇談会に参加できなかったこと、市役所内での調整・連携不足の両方がかかりました。
- ・他の市の行事や仕事と重なったため、他課の職員が出席できなかったこと。申し訳なかった。
- ・行政への注文があまりなく、自己解決の姿勢に偏重しすぎているような嫌いがある。
- ・どの地域も、場所の提供が少ないという現実。

◇私にとって必要だとわかったのは

- (コミュニケーション)
- ・人の話をよく聴くこと。
- ・自分をオープンにすること。本音で話すこと。コミュニケーションスキル。
- ・市民とのつながり。
- (地域活動、その他)
- ・人のネットワークづくり。
- ・日々の努力。もっと積極的に。
- ・精神保健福祉の分野で仕事をする者として、この分野をもっともっと皆さんに知っていただくべき立場にいるということ。
- ・仕事では頑張っているが、個人・一住民として地域への関わりが必要。

◇私これから実行しようと思ったのは

- (あいさつ、声かけ)
- ・笑顔であいさつ。まずはあいさつ、声かけから。大人だけでなく、子どもたちへの声かけ。
- ・交流の場に出ていきにくい人に、個人的にでもあいさつや立ち話をする。
- (地域活動への参加)
- ・地域の催しにできる限り参加し、自分自身の知識を深める。
- ・職場である作業所の中のことだけでなく、「芦屋市にある施設としてどうしていくのか」をもっと考えたい。
- ・高齢者の立場で、できることをお手伝いしたい。
- ・こういう場で気づいたことを、他の人にも伝える。
- ・地域のことに関心のある市民の方をもっとたくさん見つけ出そうと思いました。
- ・自治会の皆さんと一人ひとり話し合うことも大事。団地をユニバーサル社会にしよう。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・グループでの話し合いの時間が少なく、みんなが自分のことを言えず全体討論に移ったのは残念。ワークショップの意味が半減と思った。
- ・話すことがとても大切と思いました。LOVEの心構えを実践することの素晴らしさを実感しています。
- ・この会が言いっぱなしの会に終わらず、小さなことから一つのテーマを得て行動に移せたらと思います。
- ・交流とよく言うが、具体的にはどういう交流か。夜間住民にでも、それなりの地域との関わり方があるはず。若い人は目的のない集まりに慣れていない。

【第3回市民会議】平成18年1月12日

◇私が学んだのは

- ・意見や考えのまとめ方。
- ・人の意見をまとめるのはとても大変だということ。
- ・協力し合えば成果が得られる。
- ・グループで何かをやり遂げることの難しさ。
- ・ワークショップの楽しさ。
- ・グループ7人の考え方が違っても、うまく関連づけはできていく。
- ・参加者の思考回路の差。
- ・いろいろな意見を知ったこと。
- ・言葉は大事である。文章は伝えたいことを伝えられるように言葉を選ぶ。
- ・個人の参加意識を高める必要性。
- ・芦屋市が抱える問題の一端。

◇私が改めて学んだのは

(プロセスについて)

- ・手順や段取りの共有が大切なこと。初めにすりあわせをしないと混乱する。
- ・誰か1人が2人がリーダー的に動くことで、課題達成が早くなる。
- ・個々の意見を重んじつつ導くリーダー、コーディネーターがどんな役割を果たすかが大事。これは地域福祉そのもので、難しいと改めて学んだ。とても勉強になりました。
- ・各人の意見、声に耳を傾け、思いをくみとることの大切さと難しさ。
- ・言葉の裏を読み取ること。
- ・まとめていくと、漠然としていたものが集約されてよくわかる。
- ・芦屋のよいところ、悪いところのカードをまとめて、それぞれ再認識できた。
- ・人と協力すること。

(その他)

- ・仕事で関わっている方の見方と、住んでいる人の見方の違い。
- ・多様な考えがある。
- ・課題がたくさんあることを改めて痛感しました。
- ・地域力の大切さ。
- ・ネットワークの大切さ。
- ・地域福祉を進めていくための基本はまず、隣近所とのコミュニケーションから。それだけつきあいが希薄になっているという現状か。

◇私が気づいたのは

(グループ運営)

- ・グループで何かをするときは、周囲をよく見ること。冷静になってみる。
- ・チームワークの大切さ。
- ・人それぞれ、同じ文章を読んでも理解の仕方はそれぞれであり、互いの意見を尊重することでより深く読み取ることができるということに再認識した。
- ・言葉の難しさ。表現方法の多様さ。

(まちの課題について)

- ・まちの課題はどれも重要なものばかりに思えた。
- ・どこの地域でも抱えている普遍的な問題と、芦屋市固有の問題があること。
- ・やはり年の功か、老人クラブの方はいろいろご存じ。
- ・団体に所属している人が多いので、一般市民としての声が少ないと思った。

(その他)

- ・在介で取り組んでいることは、地域福祉の向上に役立っているらしい。
- ・行政で求められていることと社会福祉協議会に求められていることだと思うので、しっかり取り組んでいかなければ。
- ・私の気持ちも整理していけるような気がする。
- ・多くの人何かしたいと思っていること。
- ・まだまだ勉強不足。

◇私が驚いたのは

- ・みんなの目標、考えていることが同じ方向を向いてきていること。
- ・すぐにグループがまとまったこと。
- ・皆さん、よくまとめている。
- ・前向きに取り組む姿勢の方がとても多く、テキパキしている。見習わなければ。
- ・文章では理解しにくい。
- ・3時間半があつという間だった。
- ・UFOを着地させることの難しさ。上昇してしまうのは驚き。

◇私がうれしかったのは

- ・ グループみんながしっかり意見を言い、協力し、共有できたこと。
- ・ 自分なりに手伝うことができたこと。
- ・ グループの皆さんがそれぞれ自発的に役割を担って作業を進めたこと。
- ・ 会議の間があいてしまったが、皆さん熱心に話をしてくださったこと。
- ・ 官と民が一所懸命にまちのことを考えたこと。
- ・ 新しい方との交流の場になった。
- ・ だんだん気楽に話せるようになった。
- ・ 自分と同じ考えの人が多かったこと。
- ・ 時間内にグループで意見のまとめができたこと。
- ・ 三毛先生も含めて、グループで地域課題について楽しくおしゃべりができた。
- ・ まとまっていきそうな予感。
- ・ メンバーが前向きであること。

◇私がかかりしたのは

- ・ 分類した課題を要約することが難しく感じたこと。うまくサポートできず、グループの方に申し訳なく思いました。
- ・ 自分の書いたカードの内容がわかりづらかった。人に伝わるように簡潔にまとめる力が必要。
- ・ 前回のフリップ式の問いが漠然としすぎてとても困った。とくに問8は、解決策を聞いているように聞こえた。また、個々の立場や団体の視点を大きく出すことが求められるのか、社会全体で見たときの話なのか、1つ明快に答えるのが難しかった。今回のやり方は、「見出し」「タイトル」という言葉がわかりにくく、作業が停滞した。参加者がワークショップに慣れていないせいでしょうか。
- ・ 子育て中の人の声、子ども声が出てこない。
- ・ もう少し時間があればよかった。
- ・ 我が地域の自治会活動の問題も同じだとわかった。
- ・ まちの問題や、自分のまちの嫌いなところが山ほどあげられていて、がっかりした。
- ・ 問題点はわかっていても、すぐにさっと解決できる策はないことがはっきりわかったこと。

◇私にとって必要だとわかったのは

- ・ 多方面の人々と交流の輪を広げる。
- ・ 積極的な行動。
- ・ もっともっと、市民の皆さんの声を聞こう。
- ・ 地域づくり。
- ・ 文章をまとめる能力。見出しをつけたり、要約するのが難しかった。
- ・ 思ったことを正しく伝える。表現力。
- ・ たえず考えることが必要。継続すること。
- ・ 参加者が同じ目標に関しての検討を行う場合の同一の土俵での相互意識。

◇私がこれから実行しようと思ったのは

- ・ 関係者に広める。
- ・ 地域での交流。コミュニティづくり。笑顔であいさつ。
- ・ しかられても、市民の皆さんの声をどんどん聞く。
- ・ 情報の収集。人の意見を聞く。
- ・ 近隣との融和。
- ・ できることからボランティア。
- ・ 計画を実行すること。
- ・ 子どもの見守り、手伝いから。
- ・ 11の課題が整理されたので、優先順位を的確に付けて行く上で、自分の思いを伝えていきたいと思えます。
- ・ 課題がひとまず明確になったので、次回までに何か自分の意見を具体的に考えてきたい。
- ・ 話の要点をまとめる。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・ グループで1つのことを話し合うのは、こんなにも頭が熱くなってしまうと、改めて感じた。
- ・ カードをまとめる作業をしましたが、まとめていく中で大切な小さな意見がこぼれ落ちてしまい、計画に反映されないということもきつとあるだろうと思いました。責任も感じますし、怖い気もします。そのフォローを事務局でしていただけるのでしょうか？
- ・ 大変疲れた1日でした。1つのことに対していろいろな表現があり、分類するのが大変でしたが、皆さんの思っていることは結果的に同じだと思います。

(市民として)

- ・ 芦屋で生活しているが、市民としての市への関わりが薄いことに改めて気づいた。
- ・ 芦屋のまちに住んでよかったと思える人生を送れるようにしたい。

【第4回市民会議】平成18年1月25日

◇私が学んだのは

(ワークショップ、話し合いのスキル)

- ・言葉に出して話すことはできるが、流れを整理しピンポイントにまとめていくのは難しい。
- ・筋道を立てて話を進めていく方法。マッピングの手法、効果。
- ・話し合う、書き留める、読み返し、ふりかえる、整理する、を繰り返すことの大切さ。
- ・ブレインストーミング、集団でやることの意義。とっても面白かったです。「書く」と次の話がしやすい。
- ・人の意見を聞くことによって改めて気づくことが多くある。
- ・ワークショップの楽しさ。スクラップ&ビルド。
- ・地域で新しく関わりを持つことを望んでいる人がいるということ。
- ・芦屋が1つの地域という見方。住んでいる範囲(小学校区)が地域という見方。
- ・他の町の様子。我が町の良いところ。
- ・福祉センター(いろいろな分野が集まる場所)の重要性。
- ・福祉活動の重要性。

◇私が改めて学んだのは

- ・議論の流れ、会議の進め方等。ファシリテーターの役割。
- ・マッピング。
- ・参加メンバー、すべての人々が強い問題意識を抱えている。
- ・みんなで話し合えば思わぬ事に出会う。
- ・属性で考えが変わる。
- ・共通認識に至る過程の大切さと難しさ。
- ・地域での生き方というのか、存在するということの難しさ。
- ・ネットワークづくりの難しさ。
- ・行政と協力していくには、もっとまめな働きかけや連絡が必要だということ。
- ・コミスクはいろいろな団体が借りられる場所。

◇私が気づいたのは

- ・マッピングの効果。意見など聞くだけでなく、それを書いて文字として目に映してみるとよりよく理解でき、記憶できる。
- ・意見を聞き出すことは難しい。
- ・うわべだけではなく、深く考えてみることに。
- ・多様性と関係性、構想力が必要。
- ・グループでいちばん若いので役割分担をして書記をしようと思ったのが、良かったらしい。
- ・話し合いのテーマが難しそうだったが、けっこういろいろな意見が出てふくらんでいくものだという事。
- ・メンバーがコミスク関係者だったので、他の立場の人が入っていた方が話にもっと広がりが出ていたと思う。
- ・ある程度の年齢になると、やはり地域での場を考えるようになるのかな。
- ・他の人々がとてもよい意見をお持ちであること。
- ・芦屋の課題の多さ。
- ・福祉の重要性。総合福祉センターは絶対必要。
- ・行政の縦割りが複雑化している。
- ・芦屋市の福祉に対する考え方の遅れや特徴。
- ・集会所の使用の難しさ。使うサークルが増えている。
- ・地域にある団体をよく知らなければいけない。
- ・自治会長の仕事の多さ。よくがんばっておられる。

◇私が驚いたのは

- ・コミスクってすごいんだ。
- ・みんな視野が広い。
- ・多様性。
- ・最初に各グループが描いた絵のおもしろさ。

◇私がうれしかったのは

- ・参加者は問題や課題についてはほぼ共通認識を持っている。
- ・コミスクだよりでコミスクのことは知ってもらっていた。
- ・同じ関心の方々(所属のない個人をどうデビューできるようにするか等)と、グループで話し合えたこと。
- ・活発に意見を言い合えたこと。1つのことをみんなで考えられたこと。
- ・楽しくなごやかに話すことができた。
- ・後半になるほど、自由な意見が出てきた。
- ・段々場慣れしてきたこと。
- ・回を重ねるごとに、皆さまの目指す方向がだんだん分かってきたこと。

- ・ 良い方に出会えた。
- ・ 在介でしているネットワークづくりはまちづくりの役に立っているらしい。
- ・ いろんな情報を教えていただいたこと。
- ・ 平均年齢は高いが、皆さん深く考え、積極的に発言なさる。
- ・ マッピングをしていく中で、今まで考えていたこと等を整理することができた。地域福祉計画に希望が持てるマッピングになった。

◇私がかかりしたのは

- ・ コミスクの内容、あり方は分かってもらえていないなあ。
- ・ 自分の地域には当てはまらないことが多い。
- ・ 班分けの結果、コミスク関係者が3人かたまってしまい、他の団体の状況がよくわからなかった。
- ・ グループで、自分が発言するのが下手なこと。
- ・ あまりにも縦割りで各団体、組織がバラバラらしいこと。一人の人に負担が大きくなっている。

◇私にとって必要だとわかったのは

- ・ 問題を解決するための考え方。
- ・ よく考える。他人の意見を聞く。
- ・ 経験や体験だけでなく、明確な資料を基にした発言が必要なこともある。
- ・ 行政ともっとつながりを持って行くように働きかける。コミスク活動に協力してもらえるように。
- ・ 市の施策の中で、総合福祉センターの必要性を訴えること。最優先事項に挙げるよう、福祉分野として働きかける。
- ・ 地域の具体的なことにもっとアンテナをはって知る。
- ・ ネットワークは大切。
- ・ 芦屋市の中で活動しているグループをもっと知らなければならない。
- ・ 先入観をできるだけ排し、素直に各種団体に参加する（心構え）。
- ・ 地域の課題は雑多にあるので、優先順位をつける必要がある。

◇私がこれから実行しようと思ったのは

- ・ 町内で直面している問題を皆様のご意見をもとに実行していきたい。
- ・ もう少し、自治会、老人会の様子を探ってみよう。
- ・ マンション外にも目を向けて、地域のつながりを知る。それがあってこそ行動できると思うので。
- ・ ネットワークづくりをさらに強化したい。
- ・ 自分の地域にあったネットワークづくりを進めたい。
- ・ 交流。
- ・ 問題をみんなのものにするために、団体やグループが一同に集まって、それぞれの専門グループと共に解決できればいいと思う。
- ・ 芦屋市の数値的なデータ調べ。
- ・ 勉強してきます。
- ・ 物事を深く考えてみること。
- ・ 漠然と思っているのではなく、マッピングのように考えをめぐらせること。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・ 皆様のご意見を聞くのにひじょうに良い機会だと思います。
- ・ 市民同士で話し合う時間をもう少し長くすべき。参加者の気持ちをほぐすことは必要だが、時間が長すぎるように思う。
- ・ 市民意識って、どうすれば向上したことになるのでしょうか。
- ・ 教育も大切。
- ・ 思っていることを聞き手にわかるように伝えることは、やはりなかなか難しいですが、頑張っていきたいと思います。
- ・ マッピングの話し合いの中で、白熱している時にファシリテーターの再説明があり中断したので、その効果の程は？と思いました。
- ・ マッピングの手法は職場でもやってみようと思った。

【第5回市民会議】平成18年2月3日

◇私が学んだのは

(メンバー)

- ・ 芦屋のまちには多くの人材がいる。
- ・ コミスクの若い人と一緒にテーブルでたくましさを感じました。嬉しい。

(プロセス)

- ・ ネットワークづくりへのアプローチの仕方。
- ・ 多様な立場の意見をまとめる大変さ。民主主義は時間と人間力がある。
- ・ 関係者レベルでの要望から市民レベルでの要望になることの大切さ。

(その他)

- ・ 芦屋らしさ。最後に質問して下さったことで改めて見直した。
- ・ 発表を聞いて、各テーマはそれぞれ結びついていてと思った。
- ・ 楽しく暮らそう。そのためにはありのまま。
- ・ 地域福祉といっても、あまりにもテーマが多すぎて難しい。市民意識にもっていくには、まだまだ。

◇私が改めて学んだのは

(多様な立場・意見)

- ・ 「いろいろな立場の人がいる」「いろいろな意見がある」ことを尊重し合い、本音で向き合ってこそ、協力できるということを再認識した。
- ・ 世代の違い、かかわる地域の違いを超えて、いろいろな市民の意見にしっかり耳を傾ける。

(その他)

- ・ ふだんあまり考えていないことでも、テーマを与えられて考えねばならない状況におかれると、それなりに一生懸命考えることができるものだ。
- ・ 自治会活動が活発であること。

◇私が気づいたのは

(ファシリテーター)

- ・ ファシリテーターが常に笑顔で語りかけていらしたこと。
- ・ 話の筋道から外れないように、グループディスカッションを進めていくには進行役がいる。地域福祉は誰が進行役となるか？
- ・ 連携するには、まずお互いを知り合うこと。そのためにはコーディネーター的な役割も必要。

(多様な意見)

- ・ 1つのテーマでも、何人かが集まれば本当に多くの意見、考えがある。
- ・ 福祉関係の会で同じメンバーになることが多いが、今回、公募委員さんも加わり、新しいメンバーで新しい意見があって良かった。
- ・ 難しいテーマではあったが、グループの皆さんが積極的に意見を言い合い、分かり合える考えを持っておられたので時間のたつのが早く感じました。
- ・ ワークショップに参加する度に元気になる。ドキドキ、ワクワクする。楽しい。これは仕事じゃないから？
- ・ プロジェクト33はちょっと難しすぎる。それぞれの課題を関連づけていくとおもしろい。
- ・ 芦屋の老人会の会員数は15%程度と少ない。生涯教育が盛んで学歴レベルが高いと思われる。

◇私が驚いたのは

- ・ 節分なので福豆を持ってきてくれた参加者があった。お心遣いうれしかったです。
- ・ もっと自治会連合の中で話し合われたりする必要があるのでは？ 毎回、世間知らず・未熟な意見にがっかりする。

◇私がうれしかったのは

- ・ 回を重ねるごとにみんながうち解けて、行政とも交流しやすい雰囲気が出来たこと。
- ・ 1つのテーマを協力して行っている時の雰囲気の良さ。
- ・ グループの中で話をまとめる時、積極的に、上手にリーダーシップをとってくださる方がいらしたこと。
- ・ 話し合いをすると次々と新しい意見が出て、その中から素敵な発想、アイデアが生まれてくる。
- ・ 今後の活動へのヒントをもらえたこと。
- ・ 行政の方の姿勢がとても共感できること。
- ・ 夢が実現しそうな予感が…絵に描いた餅ではなく。
- ・ 「インクルージョン」は同調できます。
- ・ 意見が言える人がしっかり育っていること。違った分野の人の意見が聞けること。
- ・ 芦屋ブランドの中身を考えなければとの意見が出てきたこと。
- ・ 芦屋らしさがわかったこと。

◇私がかかりしたのは

- ・ 発表がへたくそ。
- ・ いつもの参加メンバーだけでなく、若い人(市職員でも、市議員でも、社協職員でも)に参加してほしいと思う。

- ・文化力という切り口がなかったこと。
- ・芦屋のコミスクの存在は大きいと思う。なぜコミスクの委員長さんは、そのことを言わないのか。
- ・ブランドを決めるのはそこに住む人ではなくて、外の人がそう呼ぶのではないか。相変わらず芦屋ブランドの言葉が歩き出し、本当はその中身が問題です。
- ・他のチームの発表に対して反応がない。
- ・高齢者が多いところで横文字はちょっとどうでしょうか。

◇私にとって必要だとわかったのは

- ・行動力と実行と説得力。
- ・何事も積極的に取り組むこと。
- ・どんな意見でも声に出して言うこと。それが他人にも参考になるし、又その逆に他人の意見で初めて気のついたことがあるので、声を出すのは大切。
- ・人のネットワーク。
- ・もっといろいろな人とかかわること。
- ・意見を他の人へ伝える時のノウハウ。
- ・意見が言えないので、思ったことを素直に言えるようになる。
- ・時間をかけて町内に入っていくこと。

◇私がこれから実行しようと思ったのは

- ・地道に一步一步、ネットワークづくりを進めて行きたい。
- ・LOVEの精神で、最後は楽しめるよう努力すること。
- ・自分に出来ることを少しでもお手伝いしたい。
- ・小さな事の実行。その積み重ね。
- ・老人会の広報を担当しているので、皆様の意見を参考にして記事をまとめたい。
- ・口コミで広めてもらえるよう、PRに力を入れる。
- ・もし大名刺交換会を開催したら、こういう人（マンションの子どもグループのママさんなど）に声をかけてみよう！と実際に心の中で計画した。
- ・ソーシャルワーカーと名乗れるようになりたい。
- ・情報発信の充実。地域の人材を大切に、1つ1つの出会いを大切に。（活動実践者の卵として）
- ・楽しく地域の中で暮らすこと。
- ・表面的なものではなく、中身のあるまちづくり。精神的に豊かなまちづくり。
- ・次へのバトンタッチを考えながら活動をしていこう。
- ・これからも井戸端会議を含む話し合いは続けよう。
- ・町内にある商店をできるだけ利用しようと思っています。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・日頃集まると言えば同世代の女性ばかりがほとんどですが、この会では中高年の男性や若い女性、男性も参加されていて、とても建設的な意見を伺えてよかったです。
- ・市民の後押しで、行政や全体は動いていくんだなあと改めて思いました。
- ・最後の芦屋らしさの話がとてもよかったです。また、ここ2回、グループディスカッションできて、細かいローカルな話を数人で共有するプロセスがとても楽しく、建設的だった。この会議が終わってから、自分もこういうことをしてみよう、こんな変化が起こせるかもしれない、というのが、具体的に思い描けるような、とても積極的な気持ちになりました。
- ・動くことで繋がりができ、何かが生まれると思いました。
- ・ここで出合った意見がどのようにクリエートされて福祉計画の中に生きていくのか、とても楽しみ。
- ・芦屋市ならではのメリット性、強みを生かした地域福祉計画づくりを。
- ・今までの作業で出たものを、次回どのようにまとめるのか。またまとめたものを計画の策定委員会にどうつなぐのか。
- ・他のプロジェクトチームとは違った観点から、イメージづくりの方向で話し合いが出来て意見がまとまったことは大変有意義であった。他のチームの意見が聞けたのは参考になった。
- ・子育て中の方の意見は届いているでしょうか。
- ・私のように勤めに出ている人は、なかなか町内のことがわからない。時間をかけ、自分から話していかなければならないのだろう。
- ・芦屋の方はマイクを自分から取ることはなかなかしない。
- ・地域福祉市民会議という、大きな漠然とした会も5回を終わり、皆さんと話し合っていくことによって目的が目に見えてきたように思います。いろんな考えを持ってらっしゃる方と話し合うことが大きな力と結果を生むものだとつくづく思いました。2回続けて6人という少人数で話し合えたことが良かった。
- ・自分自身が芦屋市民であることを意識し、地域福祉について考える時間と機会をいただけたことに感謝しています。

【第6回市民会議】平成18年2月21日

◇私が学んだのは

(地域福祉・福祉など)

- ・ 地域福祉の重要性。
- ・ 地域福祉って、生きていることそのまま。知り合う。おつきあい。つながる。
- ・ 地域福祉も、人と人の相互作用で成り立っていること。
- ・ 協働と協同の大きな違い。
- ・ 福祉の奥深さ。範囲が大きいこと。
- ・ 地域福祉はとても重要だけど、とても難しい。地域格差があり、個人格差があり、一人の百歩はその人の努力でなしえるが、百人の一步は時間がかかるような気がする。
- ・ インクルージョンという考え方。

(コミュニケーション・ワークショップ)

- ・ ありのままの自分を出すことは難しい。
- ・ まず声に出す。そして他人の意見をよく聞く。LOVEの精神。
- ・ 耳を傾けることの大切さ。知ろうとする気持ちが大事。これらを楽しみながらできる環境と心境。
- ・ 一人ひとりの思い、考えが違うが、認め合うこと。
- ・ 会議の進め方。
- ・ ワークショップの手法のおもしろさ。
- ・ よりよいまちにするため、まずは身近なこと、小さなことでも自分の思いを伝えることが必要。
- ・ 魅力あるテーマは人を集めることができる。
- ・ 過去6回のワークショップのように、人と人が思いを打ち明け、問題について相談するプロセスが、そのまま地域福祉なんだということ。そこから新たに一步を踏み出すとなるとまたエネルギーが必要ですが、でも、そのプロセスからエネルギーが生まれてくる気がしました。慣れないうちはたいへんでしたが、グループでの活動はおもしろく、とても勉強になりました。UF0など、工夫があり楽しかったです。ありがとうございました。

◇私が改めて学んだのは

- ・ 地域福祉の指針。
- ・ 福祉は奥が深い。
- ・ 参加者の熱意。
- ・ 会議は明るく楽しい雰囲気が大切。
- ・ 会議って、結局言いたいことが伝わらないのよね。
- ・ コミュニケーションがはじまり。
- ・ 相手の意見に耳をすまして聞くこと。
- ・ フリップ方式の有効性。
- ・ マッピングを通して考え方が集約されること。
- ・ LOVEの心構えの大切さ。とくにOPENによって生の声が聞けること。
- ・ 探る、つながる、やる気になることの大切さ。絵に描いた餅にしないように。
- ・ つながっていくことの重要性。
- ・ 地域差がある。
- ・ 同じ事をやっけていても、立場が違うと考えや見方が違うらしいこと。とくに行政の立場の人。
- ・ 自分から何かやるべきこと、やれることを見つけなくては進めない。
- ・ 何事も「人」がつくり、動いて(動かして)いくということ。
- ・ 行政の責任の重さ。

◇私が気づいたのは

- ・ 大勢の中で意見を言うのは難しいが、少人数だと話もしやすく、気軽にしゃべれていいと感じた。
- ・ 話(スピーチ)は簡潔でありたい。
- ・ 耳をすませば、何か思いの共通点が見えてくる。
- ・ いろいろな分野の方が集まれば、いろいろな考え、思いがある。
- ・ いろんな意見や考えはすべて、まちや人間関係を良くしていきたいという方向に向かっている。
- ・ やる気を持った人はいろんなところにいらっしやるのだと再認識。
- ・ 地道な市民活動をされている人が多いこと。
- ・ 出席率が良かったこと。セッションが楽しかったから? 何かに期待?
- ・ 芦屋の特性。
- ・ 好きでないところも多いけど、やっぱり芦屋がふるさとです。
- ・ 芦屋ブランドは福祉推進の戦略に取り入れるのは良いが、流されないように願いたい。
- ・ 環境問題も福祉問題も、形は違っても問題は似たようなもの。
- ・ 福祉は「ふ」だんの「く」らしの「し」あわせ。

◇私が驚いたのは

- ・ 毎回、会議を楽しみに待っていた。
- ・ あっという間に6回終わったこと。
- ・ 初回と比べた熱気の差。

- ・この会議の出席は少し重荷に感じていたが、楽しみにしている人もいて反省。
- ・メンバーが熱心で会議に参加したことを喜んでいるし、何かしたいと考えている。
- ・いろいろな立場、事情をお持ちだと思うけれど、皆さんゆったりした雰囲気。
- ・みんなの思いがどこかでつながっていること。
- ・同じ言葉でも、感じ方、取り方はいろいろ。
- ・「あ」たらしい、「し」みんりよく、「や」ってきたのキャッチフレーズ。

◇私がうれしかったのは

- ・ネットワークづくりのヒントを得たこと。
- ・視野が広がったようで、何かできるような気がする。
- ・良い方々との出会いがあったこと。全部出席できたこと。
- ・つながりのようなものが生まれたこと。これからのつながりを望む方がたくさんいたこと。
- ・一緒にひとつのことを考え、その考えや情報を共有できたこと。
- ・委員に選んでいただいて感謝しています。休まず出席できたのが嬉しかった。
- ・最初は消極的だったが、頭の活性化ができた。
- ・芦屋は小さくて、お金のないまちになったけど、人間力はとても大きい。
- ・ちょっとした思いやりがあれば、難しく地域福祉と言わなくても道は開ける。
- ・地域のために自分でできることはやるという人が多い。何でも行政の責任という人がいない。
- ・「自分にできることを、できるときに」をモットーとして活動してきて、そういう考えの方が他にもたくさんおられることがわかったこと。
- ・市役所の方が、一般市民と同じ目線で考えてみようかと努力されているのがわかった。
- ・保健福祉部の皆さんにお世話になったことを有り難く思います。ワークショップを企画されたグループの方々に感謝申し上げます。
- ・芦屋にすでにこんなすごい方々が、主体的に活動していると知ったこと。自分が芦屋の地域住民だと感じました。

◇私がかかりしたのは

- ・ようやく慣れてきて、多くの皆さんと知り合いになり始めてきた頃に最終回を迎えたこと。
- ・生活弱者としての障がい者の団体や、小さい子どもたちを持つ団体（子ども会は来ていますが、役員としてではなく、実際に子育て中の保護者など）が参加していないのは何故なのでしょう。
- ・福祉問題なので、その当事者が多いのは当たり前かもしれないが、違う方面の方の参加があった方がよかったと思う。
- ・1つ1つの運びに時間を使いすぎでダラダラ感。肝心なところが不足感。メリハリをつけた時間配分があった方がよかった。
- ・もっと小規模な、たとえば町単位、地域単位の福祉を考えたかった。

◇私にとって必要だとわかったのは

- ・行動力。
- ・時間。
- ・人間は素晴らしい。
- ・ソーシャルワーカーの自覚。
- ・視野を広げること。この会議で少しは広がったかな。
- ・一人でも多くの人との出会い。思ったことを素直に発表すること。
- ・思っていること、考えを発表すること。
- ・あきらめずに続けていくこと。無理のない活動をする。まず身近なことから踏みだそう。
- ・地域福祉の主役は住民であるということをいかに理解してもらい、実際に動いてもらうか。
- ・このつながりが、今後情報交換の場（連絡会）づくりにつながっていけばいいと思います。どの団体にどのように協働できるかなあ。
- ・次年度もいろいろ活動が続けばいい。
- ・LOVEの精神。心構え。
- ・人の気持ちを考えて行動する。
- ・福祉団体としてではなく、もっと広い視野で福祉を見て考えること。
- ・実際に動いてみる。現実には毎日、学校、仕事で時間がないですが、やれそうなことを見つけてみようと思います。人と関わり、つながること自体の楽しさを体験していきたいなあと思います。

◇私がこれから実行しようとしたのは

- ・今まで通り、自分なりに行動しよう。自分が必要とされる人になれるように努力する。
- ・身近なところから、できることをやっていく。
- ・遠くのことより近くの課題に集中したいと思った。
- ・継続、持続。
- ・ネットワークづくりのためのマニュアルの作成。
- ・挨拶運動を実践する。
- ・ここで学んだことを、少しでも自分の立場で活かそう。
- ・拠点作り、がんばろう。
- ・自分の良さはよくみ、悪さをセーブする。

- ・ まず、自分が楽しく幸せに暮らすこと。
- ・ 今まで以上にいろいろな方たちと交流を持つこと。弱者の高齢者についてもっと理解されるよう啓蒙したい。
- ・ いろいろな分野があるが、まずは高齢者支援から。
- ・ 自分にあったボランティア活動を見つけて、そこから発展していきたい。
- ・ とりあえず、まず次年度の活動に向けて、地域にいる活動実践者の発掘にとりかかります。
- ・ 動員で参加することが多いのだが、自分から進んで何かに参加するように…できるかな。
- ・ 個人レベル、家庭レベルでできることを心がける。
- ・ インクルージョン。人に優しく、包み込む、気持ち、人の悪口を言わない。
- ・ 「インクルージョンのまちあしやを考える市民の会」ができそう…。同窓会やりましょう。
- ・ これからも仕事として、とくに老人福祉とかかわっていくと思うが、今回学ばせてもらったこと、とくに地域自治、コムスク、子ども会の方々の活動も忘れることなく、地域の行事にはできる限り参加したいと思います。
- ・ 芦屋のまちに何らかの形で貢献すること。
- ・ 芦屋らしさの視点を忘れずに、できるだけ市民会議での意見をいかして地域福祉計画の策定作業に入る。

◇その他、気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは

- ・ 51年前、芦屋が好きになって住み着いたのは、丸ごとつきあえる人間がいるまちだから。
- ・ これからの福祉にしても他の事でも、若い人たちが参加できる時間帯が取れたらよいと思った。私事です、娘が仕事を持っていたら参加したくてもできないと言っていました。
- ・ 会議で市民の生の声は出たが、まだまだ偏っているの、各団体の代表だけでなく、もっと違うメンバー選びも必要かなと思います。
- ・ 毎回緊張の日々でしたが、確たる目的や意見を持っていらっしゃる方も有り、素晴らしい方々との出会いです。ワークショップは楽しい方法で、少人数で組まれていたこともあり、話し合いもよくできました。今後、せっかく出会い、共に学んだメンバーなので、つながりを大切にできたらと思います。話し合いがどう生かされるか楽しみです。
- ・ 会議を延べ時間にするとかかなりのものです。何か役に立つのか、どういう結果が出るのか楽しみ。
- ・ この機会を逃さず、次なるステップの会で、皆さんと出会いたいと思った。先生方、ありがとうございました。
- ・ これが最後でなく、今後の活動に生かしていければ。
- ・ 新しい芦屋人をどうやって育むか。
- ・ まだまだ地域には無関心な人が多い。地域づくりには人づくりが必要。放っておくと地域はどんどん悪くなる。
- ・ 実際の地域福祉計画に、皆さんの熱い思いを盛り込んでほしい。実現可能でわかりやすい、みんなで作っていく地域（まち）となるように。行政の方のボランティアは、興味を生かして、勤務時間外にサークル的に行う方法もあるのでは？ 通勤途上で子どもの見守りの意識を持つだけでも。
- ・ 芦屋らしさ、インクルージョンのまち、他の町から訪れた人たちにもやさしいまち、弱者にも外国人にも住みやすいやさしいまちにしたい。
- ・ 福祉を支えるのは、組織や理念だけでは無理。財源についての話があまり出なかった。会の性格上やむを得なかったのか。
- ・ 私のモットーの1つに「がんばらない、無理しない、あきらめない」があります。あせらず、無理せず、今の活動を続けていこうと思います。
- ・ 人の振り見て我が振り直せ。三次元、四次元的考えの人を見習いたい。違いを認める広い心を持ちたい。
- ・ 芦屋に住むいろんな人に出会えたのがいちばん嬉しかった。福祉分野でも地域間の格差が広がり、「勝ち組」「負け組」という考え方が社会を覆っている今、それでも地に足をつけてまちを、社会を真摯に考えている方が多くいることに勇気づけられました。この会議に参加させていただき、ありがとうございました。芦屋でこれからも育ち、生きる子どもたち（障がいや病気のある子も含めて）のために、今、大人たちのやらねばならないことを、焦らず一つずつ積み重ねていきたいと思いを新たにしています。ファシリテーター、学識の方はじめスタッフの皆さん、ありがとうございました。
- ・ 地域福祉というのは、特別な人（特定の人）のものではなく、住民・市民みんなのものだということ。
- ・ 市民の生の声を聞くことが行政にとって大切であること。どんな時にも背伸びをしないでやること。

芦屋市地域福祉市民会議委員名簿

| 団体名 | 氏名 | 団体名 | 氏名 |
|---------------|--------|--------------|--------|
| 公募委員 | 赤崎 扶美子 | 芦屋市民生児童委員協議会 | 半田 孝代 |
| あじさいの会 | 安宅 桂子 | 芦屋市自治会連合会 | 藤網 博 |
| 芦屋市身体障害者福祉協会 | 天津 一郎 | 芦屋市コミスク連絡協議会 | 古藪 令子 |
| 芦屋市自治会連合会 | 今村 千顯 | 芦屋市社会福祉協議会 | 松本 勇 |
| ボランティアグループ | 岩野 順子 | 公募委員 | 三島 久美子 |
| 芦屋市子ども会連絡協議会 | 江守 易世 | ボランティアグループ | 村上 武久 |
| 公募委員 | 遠藤 哲也 | 芦屋市コミスク連絡協議会 | 守上 三奈子 |
| 芦屋市民生児童委員協議会 | 加納 多恵子 | 芦屋市福祉推進委員 | 山岸 三和 |
| 芦屋市民生児童委員協議会 | 北田 花子 | 公募委員 | 山口 雅子 |
| 芦屋市身体障害児者父母の会 | 木村 嘉孝 | 芦屋市自治会連合会 | 山下 正夫 |
| 芦屋市老人クラブ連合会 | 柴沼 元 | 公募委員 | 吉岡 洋子 |
| 芦屋市医師会 | 須山 徹 | 公募委員 | 吉田 清子 |
| 地域在宅介護支援センター | 高戸 るみ | 芦屋市福祉推進委員 | 米重 裕子 |
| 芦屋市民生児童委員協議会 | 高濱 眞智子 | 芦屋市手をつなぐ育成会 | 渡辺 洋子 |
| 芦屋市社会福祉協議会 | 津田 和輝 | 学識経験者（助言者） | 牧里 每治 |
| 芦屋家族会 | 豊島 加菜子 | 学識経験者（助言者） | 藤井 博志 |
| 芦屋市福祉推進委員 | 中本 洋子 | 学識経験者（助言者） | 三毛 美予子 |
| 芦屋市コミスク連絡協議会 | 西野 悦子 | 学識経験者（助言者） | 土田 美世子 |

芦屋市地域福祉市民会議設置要綱

(設置)

第1条 芦屋市地域福祉計画を策定するに当たり、広く市民の意見を聴取するため、芦屋市地域福祉市民会議（以下「市民会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 市民会議は、芦屋市地域福祉計画素案の作成に関して意見を述べる。

(構成)

第3条 市民会議は、福祉関係団体及び地域団体から推薦を受けた者並びに市内に在住、在勤又は在学する高校生以上の者であって、一般公募により選出されたものをもって構成する。

2 市民会議に助言者として、学識経験者を置くことができる。

(設置期間)

第4条 市民会議の設置期間は、平成17年9月1日から平成18年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第5条 市民会議に会長1名及び副会長若干名を置き、構成員の互選により定める。

2 会長は、会議を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する副会長が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集する。

2 会長が必要と認めるときは、構成員以外の者を出席させて意見を聴き、又は説明若しくは資料の提出を求めることができる。

(分科会)

第7条 市民会議に分科会を設置することができる。

2 分科会に座長を置き、分科会の構成員の互選により定める。

3 分科会の招集は、分科会の座長が行う。

(事務局)

第8条 市民会議の庶務は、保健福祉部総務課において行う。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか、市民会議の運営に関し必要な事項は、会長が市民会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成17年9月1日から施行する。

芦屋市地域福祉市民会議報告書
平成18年3月

発行 芦屋市

〒659-8501

兵庫県芦屋市精道町7-6

TEL 0797-38-2040

FAX 0797-38-2160

編集 芦屋市保健福祉部総務課